(新謎小説懸賞)

以良都女

第十七號

明治二十一年十月十五日發兌

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十七號目次

家政。 衣服の好。 細君虎の卷。 額椽の洗ひ方。 産前の心得。

小說。 空行く月 第八回 第九回（美妙齋作）

衛生。 日本風便所改良策‖衣服論（醫學士竹中成憲氏）

流行。 此頃の女生徒の衣服の着様‖着物ふ半衿を掛けぬ新流行‖上着‖下着‖破布‖羽織‖襦袢袖口‖羽織の掛金及紐‖うこん香の簪及大赭薔薇の簪‖猫或千鳥のかんざし‖爪紅の風‖不斷着‖頭巾 淑女の手ぶくろ‖肩掛。

講義。 用器畫稽古の仕方。

文藝美術。 聽音法（上眞行氏）‖櫻都錦繪（立花屋ゝをる作）

寄書。 如何に女子を敎育すべきか‖母親の述懷。

批詳。 新文學誌‖文明の花‖晃山記遊‖情‖都の花小說萃錦とこがね‖女學雜誌の舞踏論。

通信問答。 簿記學についての問答‖顔の色を白くする法及毛生藥の事‖葱辣薑などの後口の臭きを直す法‖カパンの汚を洗ふ法‖聲をよくする法‖白地の着物ふ墨のつきたるを落す法‖めで度ゝしくの解‖唐縮緬をフヲ子ルに似する法‖髪の薄きを濃くする法‖肥滿を防ぐ法‖雨中吟未來記‖三鏡‖色黑き肌を治す法‖香水の直段。
疑問 熨斗の濫觴。

論說。 女子職業の天惠（中川重麗氏）

餘與。 新作謎（懸賞 金港堂出版の小說）

月報。

いらつめ賣捌所

東京日本橋區新葭町	眞明堂
同蠣殼町壹丁目	新文堂
同神田區今川橋側	吉岡書店
同同佐柄木町	東海堂
同同淡路町壹丁目	嵯々堂
同同錦町壹丁目	むさしや
同同南神保町	江川
同本鄕元富士町	盛春堂
同同同	廣開堂
同同春木町二丁目	解明堂
大坂心齋橋備后町	岡島支店
堺熊野町	高山慶雲堂
備後福山霞町	明六舍

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

いらつめ第十七號

家政

淑女虎の巻

衣裝の好

始から斯樣な題を掲げましたら讀者も「面白くもない又西洋女服の評判か」と一概に耳を掩ふ方々もムいましやうが他の批判をしてお叱りを蒙るのが間尺に會ひませんから左樣な事はなしに言ふものゝ罪なく聽く方々には幾分かお爲になろうと思ふことをお話しいたす積りです。さて衣服は時世によりて流行がムいますその流行と申すのは先つ其恰好摸樣地合色合から身幅脊丈に至るまで一切合載衣服に付ての事は皆流行に供ひます。流行に付て忌々しいのは漸と今樣に慣れたかと思ふと最流行後れとなつてゐることです。そして又流行するものに限て何時でも是からは好みに適しさうになりかけたものと反對に出るのです。私共の子供の時に至極短い羽織が流行り歩くと帶が顏を出す位でありましたが少時經て之が全然反對になり長い羽織が流行り着物の裾やら羽織の裾やら分らぬ位で袴を着けても後から見れば分らぬ程でムいました最一つ可笑しいのは溫ろそうな牡丹餅のやうな而も五ッ紋付が流行るかと思へば灸点のやうな一ッ紋が流行となりました。是も天保時代の事ですから悠長な流行です。處が西洋と交際を始めてから巴黎流行は餘彼が五千里外の東洋の岸にまで押寄せることとなりまして洒落た方々は巴黎の新樣でなければ交際が出來るものか抔と思召して二三年前の流行を綺羅靡かして得色あり或は喪服を着て祝宴に出掛けたり官服を召して銀座街を往來さるゝ貴女方ありとて福地さんのもしや草紙にまで書立らるゝに至りたるは流行の大變にしてケ樣な間違ひの出來るのも無理はありません。

兎に角一國にして定りたる國風の服裝なきは實に不仕合の至りです。英國のウイッグレー女史が嘗て申したとがムいます瑞西の少女の風俗を見ば實に羨しい。裾短くして方形に張出したる袴を穿ち髮毛は梳上けて扁たき帽子の下より一括りにして脊に下げたる風万人一樣にて昔より之を改むるともなくて滿足するもの〻如し誠に流行を追はざるは英國人の如く世界中の風俗を借來り雜合さする者に比すれは餘程經濟なり」

と申しました。

去りながら流行に付きては一思案をせねばならぬことが厶います。如何に可笑しき流行にても一旦世間の流行となりたる以上にて無下ニ馬鹿らしいとて擯斥し古風を後生大事ニ守るは馬鹿らしき流行より尙馬鹿らしく見ゆるものです。そこで家政を司らるゝ方々ハ流行を趁ふのが其務でなく外の方にも心を配らなければならぬお身分ですから餘り極端に走りてはなりません流行を趁ふのハ固より惡く無頓着に古風を守るも褒めた事でない唯傍觀にも奇態になく目立たぬやう身仕度するのが肝要です。成丈恰好よく且健康に適したる服裝を擇ぶのが何より上策です。常服にも致せ盛裝にも致せ小奇麗に恰好よく身裝をなされたならば何となく床しく見えます。全体婦人方は不斷出來る丈淸潔と上手ニ身仕度をなさるのが夫々の務です。婦人方は社會の花とも申べきなれば園庭の花の愛すべきが如く可憐の情致が無くてハなりません。然るに近頃女書生と自ら名のり玉ふ一流の女子の中には頭は蓬髮同樣束髮のグルく卷に簪をも加へず身にハ黒ツポケたる衣裳に偶にハ小倉の馬乘袴を穿き足にハ牛皮の男靴を踏み長足濶歩して自ら明治の女丈夫と思ひ玉ふハ畢竟するに敎育と智識のなきことを觸れ歩行くニ等しき譯で實に憫然の至りです。是等ハ固より論外のこととして婦人ハ容色に心を用うへき務のあることは前に申した通りでそから如何なる肉色ニは如何なる色合がよく適すへきやケ樣な容貌には如何なる仕立が似合ふべきやと工夫するは勿論惡いことでハ厶いません。今肉色と衣服の色合に付て一言いたしませう。（つゞく）

細君虎の巻

松孃

良人の失敗は之を慰むべし。物事すべて思ふ樣にゆくものではムいません。いかな人でも必らず失敗とのあるもので失敗た時にドコがドコ迄もやり遂げるのが人の人たる處でカクてこそ滿足なる結果が得られるのです。が悲しいかな一の矢を射そこねると氣落をして二の矢をつぐ勇氣もうせて見すく獲物をのがす人が多いです。此時に傍から一言助言して勇氣をつければ二の矢は發矢獲物の胴中に當たります。思たとは美事にはづれアヽくとても駄目だと思ふときでも思はぬ失敗をやツてアヽくつまらぬ事をしたと悔む時でも朋友や婦人が慰めてくれますと先の失望は消えうせて

愉快なる望がわき出ます。　そして慰めるに最も力のある者は婦人特に細君です。　ドンナに失望した時でも細君のアノやさしい心でアノやさしい聲で慰められるときは先に不愉快を以て壓しつけたる精神も愉快を以て膨れあがります。
然るに世の中には全く此の大任を打忘れたる不心得の連中も隨分多うムいます。　畢竟躾のない故ですから皆樣の如き教育のある方々は「五月蠅言は無つてもイヽヨそんな下等社會の話」などゝ仰しやいましやうが。　不思議です是が山神社會ばかりの話でありませんから。　一通りお聽き下さい。
良人は日々外に出てゝ家にかへる時には何時でも同じ顔はしてをりませんホクホクと御機嫌で歸ることもありましやうまた顔色青ざめて物思はしげに口數を利かず鬱いでをることもあります。　笑を含むには笑を含む譯あり鬱いでをるには鬱ぐ譯があつてのことですのに細君は何時でも木で鼻を括つたといふ風情良人が鬱げば細君は常よりもツントして物をもいはず角の突合のやうな事が間あります。　良人が不愉快をもて壓し付けられた精神が家にかへりて又々壓し付けられます。　失望に沈むに非ざれば反動いたします勿論正理の堺を超えて。これが下等社會なれば夫婦喧嘩となし中等以上では家內不折合などゝ申しますが其實皆同一で全く細君の例の大任を忘れ、たからです。

額椽の洗ひ方。

姿見鏡又は油繪、畫額などの金椽は金色の燦爛たる處が價値でこればかりは煤色を帶びて古色蒼然といふやうになりては室內の裝飾とするとは出來ません。　さりとて年數が經ては矢張赤黑くなります。　之をおさんに掃除させますと遠慮會釋もなく雜巾などで刮りますから金色が剝落ちまして中々見苦しいものです。　そこで之を新しくするにはアルコールの中へ酒石（藥舖で賣る安き藥）を溶しおき其上澄の中へ古くなりたる金椽を輕く差入れ手早く拭き取れは本の通り立派になります。

產前の心得。

松孃

婦人の職務中子育て程六かしいものはムいますまい。　小供を滿足に育て擧げやうと致しますにも平生身体を丈夫にしておくのがまづ第一肝心でムいましてサテ姙娠になりますと

攝生が尚更肝心なるは申迄もなく母親の平生の行や心情が後來小供の性質に大關係を及ぼしますから自分の品行を愼むと又大切でムいます。　サテお産をしましてからは自分の体も小供の体も同じく攝生しませんではなりませんし又我身の一擧一動一言一語ハ皆小供の手本となりますから出産前より尚ほ更行を愼まねばなりません。　其上に小供ハ追々生長ちますに從て智惠を開發して十分なる家庭教育を授けますると實に此位六かしい仕事は世の中に二ツとはあるまいと存します。　世の母たる方々よ母となるゝ方々よ此の處をよくお呑み込なさいまして此大任を首尾よくお爲遂なッてミルの母、ワシントンの母となられんことを期望いたします。

さて是迄いらつめ紙上に産後の御注意は度々ムいましたが産前の心得は未だムりませんでしたから一寸あらまし申上ます。　抑も姙娠になりますのはけして病ではムいません。身体の壯健に備てゐる婦人方が結婚後お種を宿し分娩をすッて母子とも壯健にをひたつのハ天然自然さうあるべき筈のもので不思議ハ更にないのです。　天然自然の法則通にまゐらぬのは婦人の体質のお弱のか遺傳病でもありますか但しは御懷任中不養生をなさるからです。　尤も身持になりますと身体の營養が不斷のやうにゆきませんから神經の働が過敏になり一寸した事でも病の種となり兼は致しません。　殊に平生よはくて神經の過敏な婦人が身重になりますと滋養になる物を嫌ひ害になるものを好いて身体を益々弱めます。　又平生壯健な婦人も産の前後に養生を怠て命がけの病になることがムいますから次に述べる所注意をお讀なさい。

月經がとまッて二三ケ月めになりますと氣短になり食物ハうまくなく酸い物を食べたくなります。　この時には無理に決して食事をなさらず靜に運動して食事の外は間食をせず酸い物ハなる丈食べぬがよいです、食べ過ぎると流産の源因となります。

アヽいやだと思ふほど仕事をしてはいけません。　之も流産の源因でムいます。　ですから流産の癖ある婦人は殊に御用心なさいまし。　中以下の婦人ハ平生なれた仕事をほどよくし中以上の働かずとも衣食に不足なき婦人は氣樂に喰物でもたのしんで其日を送るがよいです。　芝居小説など感動を與える物ハ大禁物です。　身重な婦人の良人と御兩親に御忠告いたしますが家政の困難や親類の難澁など總て婦人の心配の種となる事を聞かしてはいけません。　又婦人に落度あ

りたりとも叱りてらす事は大の禁物で厶います。　婦人ハ俗に申せば氣が小さう厶います、六かしく申せば神經が鋭敏で厶い升から感動を受ける度は男子の想像の及ばぬほど弱いです。　ひどい心配などいたすは流產の源因生れ兒の死亡病身の種で厶います。

五月めになりましたら腹帶（フラ子ルがよいです）をなさい而して此頃になりますと殊に病にかゝり易う厶いますから空氣の流通をよくしわかのつゝぬ着物を着適度に運動し身体を清潔にし食事ハ必らず三度と定め間食を禁し消化れ易き物を擇み又大小便の通利に氣をつけ不規則あれば醫者に藥を求め風邪をひかぬやう注意し氣色あしきときは醫者の診察を受け用心にも用心をおしなさい。　サテ序に產室の注意を申上たう厶いますがあまり長くありますから後號で申上ます。

小說

空行く月

美妙齋主人

第八回　では嵐が花を吹矯めます。

「阿輝、そンなら御前ハ西山さんの處へ行くのを否だと言ふのか。

言ふ聲ハ阿輝の父親、十五郎です

「え、阿輝」、身を入込ませて十五郎、「否なのか。これさ默ッて居てハ分解らない。　さアどうだ、否なのか」。答へはせずにさしうつむいて衣物の縫目を爪で意地めて居る阿輝のありさま、それを見れば既にその內心は分解ッて居る譯ですのよ、それで猶悟れぬ体で問掛ける工合、既に父親の心の程は見えて居ます。

「全体こンな事を私の口から言出すのハちッと御門違なはなしだけれど、さて又これハ隨分一家の消長に關して居る譯ゆゑ、それで……阿母さんも昨日御前に說得したらうが……私が更にあらためて御前の意見を聞くのだ。　何も、何ぢや無い、そンなに取所の無い西山さんでも有るまいが。洋行して來た學者ぢや無いか」。

洋行、俗人おどしの最上の言葉。さう言ハれると猶一入阿輝は面白くありません。が、思切つて斷る事もその性質がゆるしません。

はじめは說得して居ましたが、埒の明かぬに十五郎も焦燥ッて來て、更に出直して權柄づけに爲り、

「膿んだとも潰れたとも言ハず、三ッ子ぢやアあるまいし、

唖見るやうな真似をして居るのが能か、え、阿輝。望月は家に關係があると知らないのか。おイッ、阿輝。何、何を泣くんだ。何が悲しい。伯爵夫人となるのが悲しいか。おイッてエば…おイ、阿輝。望月十五郎と言つて紳商の中で屈指と人に言はれるやうに爲ッたのは誰…誰の庇蔭かえ。」ちれて來れば、思わず言はずともの事をさへ終に言出しました。

「誰の庇蔭かえ。西山さんの庇蔭だらう。弓之助の庇蔭ぢやあるまい。」

發矢、胸に針を砭すやうな言葉。阿輝もくやしく爲ッて來て殆どこらへられません。父親はやゝしばらく無言で阿輝の泣顔を睨付けて居るばかり。遂にまた更に出直そうと思ッてか、つと座を立ち掛けました。

「血氣と云ふものは無分別なものなンだ。よく考へて見るがいゝ。泣くほど口惜しからうとも」。

このまゝでやゝ部屋を立出る父親。うしろ姿をうらめしさうに見送る目。更に入代ッて這入ッて來る例の乳母。

「あら阿孃さま、御召が汚れて仕舞ひますわね、さアハンケチで…え、阿孃樣、涙、ハンケチでお拭きあそばせよッ。」

「汚れたッて、衣物なンぞ構ふものか」。

「御目に御毒ですよウ、御泣きなさッても。」

「目はッ…目ぶッて…つぶれても宜いよウ」

常に似氣なくあら〳〵しく目を引擦る体。乳母もこらへず泣出します。

「あゝらア、まア、そンな短氣…貴嬢が左樣爲さると…わたくしも…わたくしも…阿ッ…阿孃さま」…

かよわさうな手でさしまねぎ、

「よウ、お孃さま」。

「あいよ。」てもやさしい聲。

第九回　では露が花は香を怨みます。

静に眠る月魄を掠めて、なよやかに柔い足をうつして居る男女の二人、それを彼是と說破るだけ無駄、四方の景色で誰とも推せます。

右は一面の菜畠で、風も無ければ菜の葉も動かず、はるか果には蒸出した雲を欺く一簇の茂林の形が村濃の暈を取り、稍此方の草の屋と僅に窓の樺色を帶びさせて燈火の有るのを知らせて居ます。處々には牛をつなぐ丁字形の杭が不規則

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に立並んで、月に映ッて身体を染分にし、また畠を限る楢の木の葉は折々自然と枝をはなれて其度毎にがら〳〵一種の鈴を鳴らして居ます。　仰で見れは爽な月、冴亘ッたところは何處やら苦味を帯びて居る体裁、星の目瞬々蕭然として居るかと見えます。　凡そ世にいふ靜かといふ靜かさはすべて此處に集まッて、わづかに起る男女の囁をば手持無沙汰のあせりか、いとゞ大きく聞えさせ、また徐に引摺る靴の下の落葉の密語も手に取るやうに響かせます。

腕と腕と二人組合ッて居るもの〻、動もすれば互にこづき合ッてたゝふれて居る工合、それでも既に昵しい交情のものとれ見えます、たとひその話聲を聞かずとも。

「中々寒うございますね」。この聲は何方から出ましたか。音調と後のと比較して太い方です。

「左様、さぞ寒うございましやうよ。　ほゝ」……

仝時に聞えるは平手で相手の肩を拍ッた音です。

「ほゝ」。

次で、見れば些し身体で相手を横の方へ推す姿。—

「寒うございましやうとも。　あゝ、コールド、ハアト（冷い心）。

「是は無實な。コールド、ハアト？　いゝえ、赤いハアトでも。　嘘なら」。

「嘘ですよウ。　証據も無い」。

「証據も　あのトランプを御覧なさい、赤いハアトがいくつも〳〵」。

「おや、貴下は」。　思ふに睨めましたらう。

更に婦人の方はあらたまり、

「なぜ寒いの」。

「なぜですか」。

「自分が自分を知らないで…あ、一寸々々、貴下、桂さん、直して上げましやうか、寒いのを、貴下の…ほゝ、暖めて」。

「…え？　はイ、どうぞ」。

「斯うしてねエ」、唇を桂の耳へ寄せて呼吸を一息、「ね、脂肪物をば澤山御食べなさいよ」。

あゝ、このむつゝしさ。人を言へば桂と美麗。不思議です、情合の工合は甘露の月（ハ子ー、ムーン）の面影です。そこが浮世、前回乳母と涙をわかッて居た阿輝をして之を見せしめたならその心持はどうでしやう。

しばらくは巫山戯て居ましたが、その内美麗はさも身を入

れた体で聲を潜めました。

「親父が倫敦から來て、昨日も貴下に御相談したまと、貴下そのまゝに爲さッて居ますが」、そこし考へて、「何かに異存ゟ有るンですか」。

「いえ、それほどでも」けれど取る處の無いものを」。

「あれ、さ、謙遜なさるから……人々の前で面目をうしなはなろッふのも、また危い命を助けられたのもみンな貴下の庇蔭ばかり、言立てれば妾もさう言ひふくなりまそわ。けれど其樣な事を云ッて居てはまだ親密な交際は求められますまい。ね、ですから一切そンな事には心を向けぞ、たゞ妾も親父もほンの赤心でありのまゝを申そのでそ。もし貴下がての後妾と」……

と言ひましふゟ、あせゟ暫時は言切れません。

「夫婦に」、極低い聲です、「否、ね、妾ふちの望を御聞入になるものあら」……

可愛らしさ、また此處で言葉は絶えました。夜ではあッても月ふ向ふのもはづかしく、顔を背けて眼をば無用な處へ抛ッて居ます。

「全体それは」、考へて居て弓之助も言葉を亂し、「願ッても無いことです。ゟ」

「ゟ」の一言、實に言出そにつらい言葉。それと聞いて美麗の耳も一入そるどく傾きます。

「ゟ、美麗さん、實は私は國に……日本に……一人やがて夫婦ふ爲らうと言ふものが有ッて……全体望ましい女でもありませんが、しかし親の情誼には背きゟたく」……

くるしさを堪へて、わざ〳〵言葉をかざりながら、また心配で美麗の顔を横目で偸めば、あゝ之にも氣の毒、思案に暮たと言ふ体でさしうつむき、そして下唇を前歯で押付けて居まそ。

それを見れば跡を繼ぐ勇氣も失せるやうでそ。何とか答へてくれゝばいゝと待望んでは居ますが、生憎に美麗からは容易に挨拶ゟ出て來ません。

今まで咲いて居た言葉の花も料らず萎んで仕舞ひました、根が勝氣の婦人、それだけに美麗も無念です。今の處一寸弓之助をも憎く思ひましたが、どうした緣の、その下ゟら直に未練ゟ湧いて來まそ。目指そ相手の邪魔なのは日本に居るといふ阿輝です。

今度退里 子供の奥方となった方は大層怒りっぽい質で此間も子供に何か惡口を言ったとかで間も無く離緣になってしまった」。なる程、しかしそれは其筈だよ」「なぜ、ね？」「でも、誰にも怒る令閨久しからずといふぢゃ無いか……

通俗衛生學

醫學士　竹中成憲講述

日本風便所の改良案

日本風の便所は隨分臭氣が高くして鼻向がなりませんがそれも其筈てす臭氣を跋扈させるやうヿ出來てゐるのてそもの無理はありません、便所の中ハ殊更に通氣がよくなければなりません。窓は明を取る外に通氣をよくする積りで出來てをるのですが實際は通氣の爲にはなりません。それは何故かとなれば踏板と溷の間に空氣の通ふ道がありませんから溷から出る臭氣も勢窓の方に出口を求めなければなりませんそれゆゑ日本風の便所では窓より新鮮の空氣を入るゝ事なく只臭氣の出口となつてをります。今便所の窓をして臭氣の出口を變して空氣の入口となすには踏板と溷の間より管を外間に出し其端を屋根の高さと等しくらしめ管の中程に手燭或ハ小さきランプを置くときは管中の空氣は常に煖まりて管外に逃れ出て溷の近邊にある臭氣も之に供はれて逃れ去りますから新鮮の空氣は窓より這入りて空所を填ます。是か臭氣を追出す最も簡便な法でムいます。又家によりては踏板の孔の上に蓋を置くもありますが是だけでは不十分ですから溷にも蓋を付けるのです。是は蓋に紐を付け其端は踏板の處と窓の下に設けたる滑車を通して開閉の出來る仕掛にすればよろしと思ひます

序ながら西洋風便所と日本風便所とを比較してお話しいたしましやう御存の通り西洋風便所は孔の開いた腰掛様のものですから直下ヿ扉を付けねばなりません。もし痢病腸窒伏斯淋病等の病人が過ちて汚すやうのことがありましては直に傳染の媒となります日本風の便所にハ此患ハムいません。然るに日本便所にも惡しき處がムいます兎角日本人には痔疾に罹るものが多うムいますが是は腫物の爲に痔となるものもありますが多くは便所にて蹲て力を込める爲てムいます。日本便所でも蹲様によりてハ痔疾の起らぬ工夫かムいますが他日のお話しといたしましやう。唯茲に注意して戴きたいは落紙は成丈柔なる質の紙を用ゐたいものです。淺草紙のやうなあらき紙を用ゐてハ粘液膜に疵を付けて痔疾の素となることがムいますからよく愼むへきことです。

藥を以て大便の臭を消す事。大便の臭ハ甚強きもので硫酸銅、硫酸鐵、硫酸、昇汞などいふ強き藥に掛ても全く打消すとハ

出來ません。それですから通常の家にては大便の毒を到底消すとは出來ないです。そこで毒は致し方ないとして臭氣丈にても消さねばなりません。之をけすには通例コロール石灰を撒るのです。けれども此藥は惡臭強くて人によりては大便の臭氣よりも堪えられぬといふ人もあります。されは今少しよき方法はなきやといふに隨分あります。全体大便の惡臭強きも小便と混ずるからです。どうか大便と小便とを別にするの工夫が付きさへすれば大に大便の臭氣を防ぐとが出來ます。昔からの習慣がありまして吾々には迚も大小便を仕分るとハ出來ませんから私は一工夫いたしました。先づ涸を高く置き其中に網を張り置くなり然らは大便は網の上ニ止り小便ハ涸中に入るなり。又涸よりは小便を外に導きて溜置きます。かやうに致しますれば刎ね返へさるゝ氣遣もない。赤痢腸チブスコレラなどの傳染する虫の臀に附着するともない。又大便の上に土を撒りかけるのも一法です。水で洗て流し出す法をWater closet 即水便所と申しましたがこれハ土を用ゐるのですから Earth closet 土便所と申します。これは便所の中に兼てより土を入れたる箱を備へ置き用便終れば其度毎に振掛けおくなり。尤土ニ限らず炭の粉、灰、鋸屑ならば尚更よし。

本炭はよく亞硫酸瓦斯、酸化炭素、アムモニア瓦斯の臭氣を消し且消毒の効能があります。

消毒藥。毒を全く消すには其物を燒棄るより仕方ハありませんがそれは迚も行はれへきとでありません。藥ではまだ不十分でありますが全く効能ないではありません、第一石炭酸でホッペーザイレル氏の試驗によれば百倍の石炭酸即目方にて一の純粹石炭酸に百倍の水を和したるものの中にはバチルレンは生活するとが出來ません。が、これが稀くなりて貳百倍の石炭酸ハ何の効もありませんコレラ病流行の際排泄物の汚れたる衣類などハ貳百倍の石炭酸を霧吹きで吹きたればとて何の益にも立ちません。必ず百倍の石炭酸中に浸さなければならず左すれば消毒したる衣服は物の用に立たざるべし。或醫者は橄欖油の中に石炭酸を溶かせハ功能ありなどといへど有名なるコッホ氏の試驗によれば油に溶したる石炭酸は更に効能なしといへり。

強石炭酸水　石炭酸　五、水　一〇〇、

即二十倍の石炭酸水にして是より以上は石炭酸溶けず内務省の達によれば二十倍の石炭酸水を以て傳染病患者の衣服器具排泄物糞池に灌ぐべしとあれども實際衣服に洗いでもボロボ

口とありて無用のものとなるべし。

稀石炭酸水　石炭酸　二　　水　一〇〇

即五十倍の石炭酸水ふして手足を洗ふに用うべし

昇汞

最強き消毒剤にして如何なる強きバチルレンふても五百倍の昇汞を以て殺し得べし。此薬ハ皮膚を刺戟せざされども金屬の器に貯ふべからず必ず木製か土製の器に貯へさる可らず。されほど強き消毒剤なれども肺病のバチルレンには効能少なし。内務省の達に

昇汞	一
稀硫酸	三
水	一〇〇〇

の合剤は排洩物ふ用うべからぞ排洩物にて汚れたるものを洗ひ又ハ病人の肢体を洗ふに用うべし

亞硫酸瓦斯　硫黄を火中に投ずれば此瓦斯立つあり。しかしながら直に火中に投してハ燃え上るの患あれば鉄鍋の中に硫黄を放れ之を火に上せハ程よく瓦斯立つあり　病室ハ此法によりて消毒そべし。百日咳のときふも之をいぶしてよし即硫黄三百匁ふ炭の粉十匁を混して鉄鍋ふ入れて文火ふかくべし。之を亞硫酸瓦斯の薫蒸といふ。玆に注意すへきは薫蒸を施すときは衣類なとは褪色そるの恐れあり。

衣服論

抑吾々が衣服を着るは氣候と日々の天氣との間に起る戰爭に打勝たんが爲めです。もし裸体であるならば迚も此戰爭に打勝ちて命を繋く事は出來ません。唯是ばかりでなく衣服を着るハ皮膚を暴すハ耻かしいといふ考も加ハつてをります。又此外に飾とそるの考も這入つてゐります。それだから綺羅を纏ふ方もありまそ。しかし衛生學上より申せは例の氣候と天氣の爭ふ勝つ爲より外に子細ハムいません。衣服に調製そる織物ハ夥しき種類でありまそが衛生學上より分類いたしますれバ第一木綿、第二麻布、第三絹、第四羅紗、第五革、第六毛皮の六種類に分れます。さて衣服と身体との間の關係は如何といふに衣服は身体の發射熱引導熱と蒸發熱ふ關係を持つてをりまそ。丁度人間の身体はストーブの様なもので体熱はストーブの火の様なものです。始終發射して逃げてをりまそ。ストーブのときふお話しいたしましたる通りストーブに手足を突付けて暖まるのハストーブの發射熱でストーブに近寄らずとも一室の中の空氣がストーブの熱によりて暖まり其暖かき空氣が躰に觸れて暖く思ふのがストーブの引導熱と申しさ

が衣服の場合でも仝し事です。今此大切なる問題を少し跡に廻し置き衣服と外から來る熱との關係を述へましやう。外熱例へば大陽熱の如きを吸收むの力は衣服の質にも關係なくして色の上に大なる關係があります。白き織物の熱を吸ふ力は黒き織物に比ぶれは半分よりありません。衣服の色合の事は淑女方の第一心得置ねばならぬとです今ペッテンコール氏の試驗に付きて見ますれば色合によりて熱を吸收する差ひは

白	一〇〇とすれば
黄	一〇二
深黄	一四〇
淺綠	一五五
緋	一六五
深綠	一六八
青	一七八
黒	二〇八

此表によれは白と黒と熱を吸ふ力は一と二との割合になつてをりますから夏分れ衣服は成丈白色或は黄色のものを用うるがよろしい。夏の炎天に駈け廻る車夫などは皆紺の半纏を着てをりますが愚の極です、しかし白衣を着るはお弔ひの仕丁のやうでそらか人の好かぬも無理はありませんがせめて淺き色の半纏を着たならば幾分か違ひましやう。黒塗の椀に羹汁を盛りたるときは白木の椀に盛りたるときよりも冷ゆるとが早い。北極地方へ參りますれば動物が雪のやうな白き毛を被てをります。ダルウィン氏の說では栗の葉の芋虫が青色なのと仝じ譯で雪の中に栖む獸は白くなければ敵に見付かりやすくて危いからで之が保護色だといふのです。ある程其理窟もありましやうが北極地方は寒氣が酷しいから白色を被らせて体熱を圍うれでしやう。又赤道直下の極々熱い處に漆のやうな膚をしたクロンボを造り付けてあるのは譯の分らぬ樣ですが是は造物者が餘程肝膽を碎いた策でしやう。勿論クロンボが眞黒な体で炎天を歩けば暑いとは當然のとですが如何にクロンボでも炎天を歩行ときよりは樹蔭とか岩穴などにをる間の方が永うムいます此間は白色の膚よりは黒き方涼い理窟です。すべて陰と影とにて其結果は反對です。

一枚の着物を着るよりも重着すれば暖いとは誰ても知るとですがさて何程の割合に暖いかといふに漠然です。しかし學問上のとはぼんやり／＼ではいけませんから試驗して之を數にて顯しますれば

一枚の絹を着るとき	發射熱百	とそれは二枚のとき	九十七
一枚のフラ子ル	發射熱百	二枚	八十六
一枚の通常羅紗	發射熱百	二枚	八十

此表によれは襲衣するには羅紗か一番よろしい。襲衣するにあまり密に合そよりは上衣と下衣との間に餘地ある方暖うムいます即其間成丈澤山空氣を入れなければいけません

流行

衣服

この冬の流行ハはなはだ珍らしい種類でもありませんが、あらまし記せば、

八九歳から十三四歳までの少女の衣服（晴衣）

上着　黒地に紅白あけぼの、花紅葉模様、あるひハ裏葉柳地に同じく紅白あけぼの、花模様ハある友染、あるひは茶の太筋、鼠の太筋、および黒の細筋を入合ッた大形竪縞の南部。

下着　花田小紋または格子縞の黄八丈。

被布　よほど廢れて持古しの外は新調の人がありません

羽織　紺青か、藤紫か、または薄紫の紋綸子或は無地綸子。

半襟　やハり緋ぢりめんに淡薄とした金糸の繡の有るもの。

襦袢袖口　無地緋色のちりめん。

十四五歳から廿歳ころまでのいらつめの衣服（晴衣）

上着　柄のやゝ細かい瀧縞の糸織あるひは南部。細かい形の小紋。殊に流行るのは石垣小紋、およびこの夏の裏葉柳を捺した縮めん。

下着　微塵實八丈。

羽織　鳩羽鼠か葡萄鼠かまたは薄色の鶯茶の縮緬。

半襟　これも前號に出て居たとほり。

襦袢袖口　空色ちりめん。

羽織の掛金および紐

掛金ハやはり主にS字形、時に簡畧なD字形。主に金あるひハ紫銅。

○記者思ふに紫銅の掛金ハいらつめ方にちと相應しません、ちと荒々しさうに見えます。是ハやはり銀の方が宜いでそ。

紐ハなるだけ細手の三四本寄ッたもの。去年可なり盛であッた石だたみの紐は早すたれました。色は紫勝の濃鼠。

鬱金香の簪及び大緒薔薇の簪。

束髪に一番行はれるのハ鳥毛製の鬱金香あるひは大緒薔薇の簪。通例花かんざしとして賣るのハ最早入氣に合ぬぞ、却ッてポン子ットに添へる方の作花に足をつけて簪そ風です

猫あるひは千鳥のかんざし

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

日本髪には主に青貝製の猫或ひは千鳥のついて居る細手の物。　猫又は千鳥の目の玉、斑などをば他の寶石を嵌めたのが可なり流行します。

爪紅の風

前號に出した爪紅の風はいよ〳〵行はれて來ます。

不斷着大概

糸入（藍染又は白）の綿銘仙

頭巾

ます〳〵行はれさうなのは濃花田、やゝあらはれたのは薄色の鶯茶　いづれもちりめん。

序に申上げます、頭巾をばかぶりばなしにする風が大分ありますが。これは經濟的かは知りませんが、どうも醜うムいます。　いらつめ讀者の中にはそンな事を爲さる人はムいますまいが、かぶりばなしよりはぐッと引占めて隨意な襞をつくらせるのは上着や羽織の舒々とした處と相對して面白く美くしく見えるものです。

淑女の手ぶくろ

主に毛糸製の淺黄色。指は半分かくれて居る方です。　指のまるでかくれるのには玉子色の鹿の革のが人氣。

肩掛

少女ざけのはやりでいらつめの方にはそろ〳〵摺付されて來ました。

此頃の女生徒の衣物の着樣

申せば失敬ですが、この頃の女生徒諸君の衣物の着樣などは概して下手です。　意氣といふ處はありません。　意氣と云へばとて藝妓などの風が意氣ぞといふのではありません。隨分ちかごろは藝妓の中にはわざとス子て紅粉を粧はぬ、却ッて可笑しく作ッたり、あるひは又粧過ぎて猶更しつこく見せたり、俗人の愛顧を買はうとするさへもありますからそれは標準に爲りません。　が、女生徒の諸君の中にたしかに淸楚といふ事を酌んで用ゐ。また粋といふ事を行ッて居る方が澤山にありましやうか。　たとへば舶來の物にもしろ、厚く白粉をお用ゐになるのは何事です。「白粉が濃くなればなる程その婦人の美しさは薄くなり、また麝香の匂が爲るよりも香水の方がその人を氣高く思はせる」とは何とか言ふ孃が言ッた言葉ださうです。實に至當な言葉。濃く白粉を塗るのは色が黒いといふ反對の證據で、そして又高尚な香水を用ゐ

ずに發情劑の麝香を用ゐるのは人品をおとすのみ此上も無いことです。

あれは白粉の話ですが、なほ是よりも女生徒方の中で妙なのは襟の見せ方が御下手なことです。襟足とまで稱へられた優美な處も無殘に襟の中へ潜んで居ます。これは束髪がいくらかその原因となッて居ます。が、何にしろ、束髪だからと言ッて衣紋を廢するといふ法はありますまい。府下數百千人の女生徒諸君、その中で十分に襟足をとゝのへて衣物を召して居る君は實に極めて少ないやうで、それゆゑ、御立腹あそばすな、前でこゞみになッてムク〳〵と御歩行きなさいます。こゝへでも肩掛をかけて御覧なさい。後から見て「ハテ變だ、老女か知らん、いらつめか知らん」と思惑ッて居るほど年更けて見えるものです。何故です。前へこゞむ故です。すなはち衣紋をつくらぬ故です。

まだ誰も言ひませんが記者は言ひます、「顔に次で婦人の美しさの原因は襟にある」と。實に襟のうつくしさは手先や咽喉の及ぶ處ではありません。そのさしぬけた白玉の肌、細そりとして少年の膩氣がつや〳〵して、そして稍四五本の後毛が其處でふるへて居る工合、はてそれが美事口で言盡くせましやうか。

餘計なところへ御骨を折りなさるよりは切めて是から襟足を見せるやうに爲さい。のび〳〵として御歩行なさい、前へ屈んであるかぬやうに爲さい。此處だけでは學校へも何へも通はぬ娘たちの方がまだはるかにまさッて居ます。いやしくも爲て害の無いことなら、すべて「美」を作るにはどのやうな方便を爲さッてもよろしいでは有りませんか。

着物に半襟を掛けぬ新流行

俗間の常服の婦人の衣服に半襟をかけぬ風がやゝはじまりましたが、もし記者をして包まず之を評せしめば西施の顰をいゝことだと思ッて眞似するのと同じ事だと云ひたくあります。いかゞ。御相談いたします、世間の貴婦人淑女のかた〳〵。

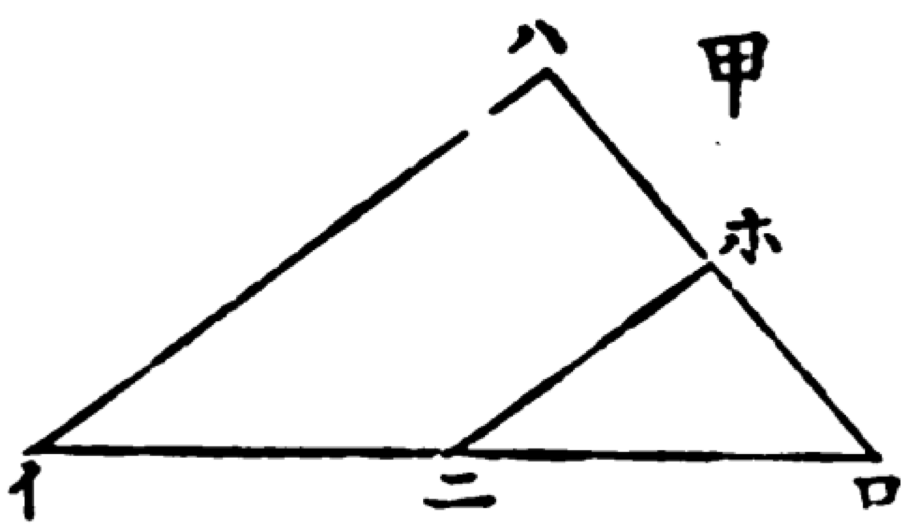
講義

用器畫稽古の仕方　第九回　ひ、さ、述

甲圖、(イロハ)なる三角形に一邊(イロ)の二分の一の點(ニ)より(イハ)邊に平行する一線を引きて(ハロ)邊を切りたる(ホ)點は(ハロ)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

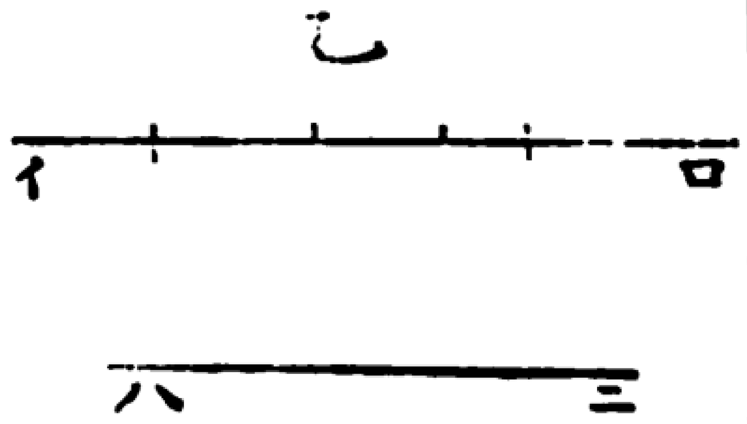
邊の二分一の處にあるべきとは已に御承知のとなり（前號第二圖を御參考あれ）若し又（ニ）点が（イロ）邊の三分一の處にあるときハ（ホ）點も（ハロ）邊の三分一の處にあるべし今此の如き關係を算術の式によりて書き顯さは



（イロ）：（ニロ）＝（ハロ）：（ホロ）

の如き正比例式を得ます。此によりて御工夫なされば次の題は容易に御了解になりますやう

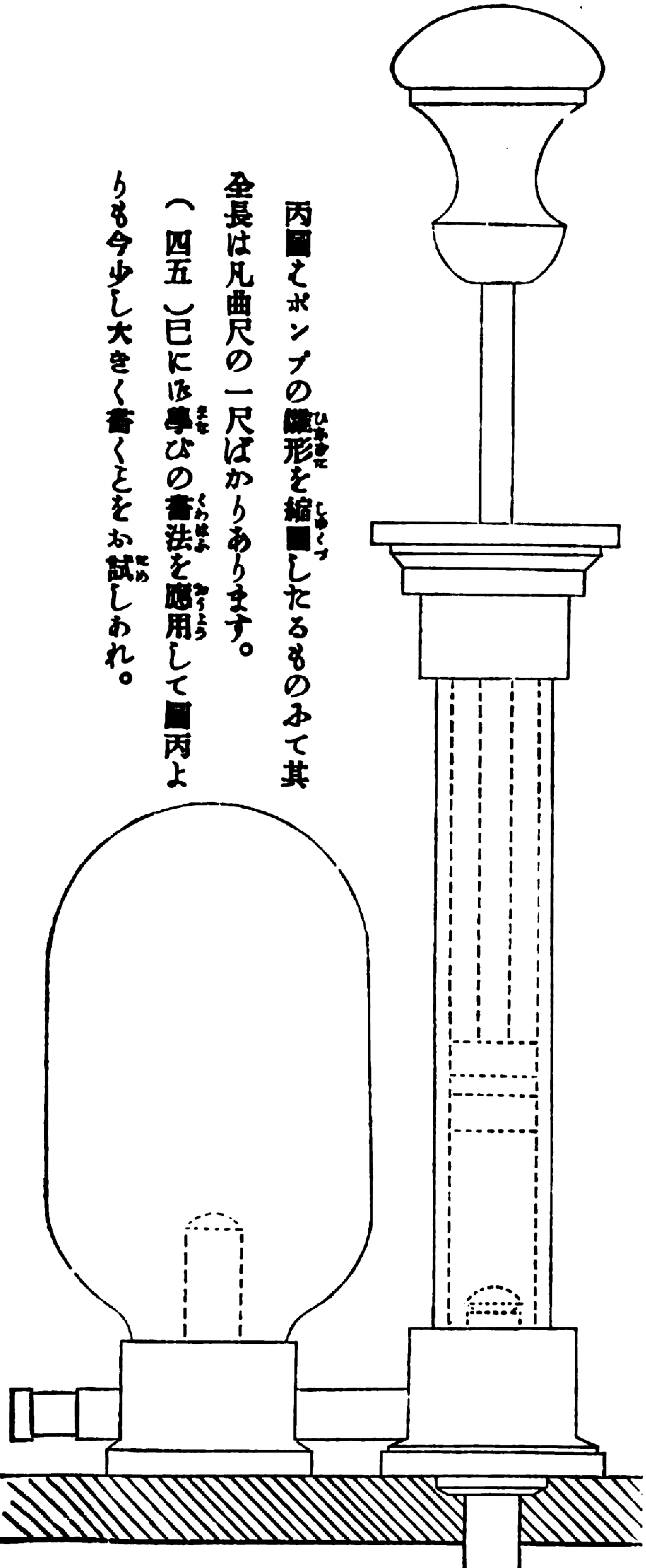
（四四）乙圖に於る如く（イロ）線を適意數個に分割したり今此線よりも短き（ハニ）線を（イロ）線に於けると同し比例に分割せんと求む其書法ハ如何。



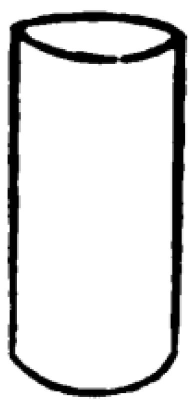
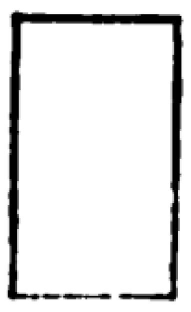
前題は實物又ハ圖畫の縮寫をなし或ハ其廓大圖を作らんとするとき其尺度を製するに必要なる方法です。今次に掲げたる丙圖を此尺度によりて廓大に書き試み給へ。

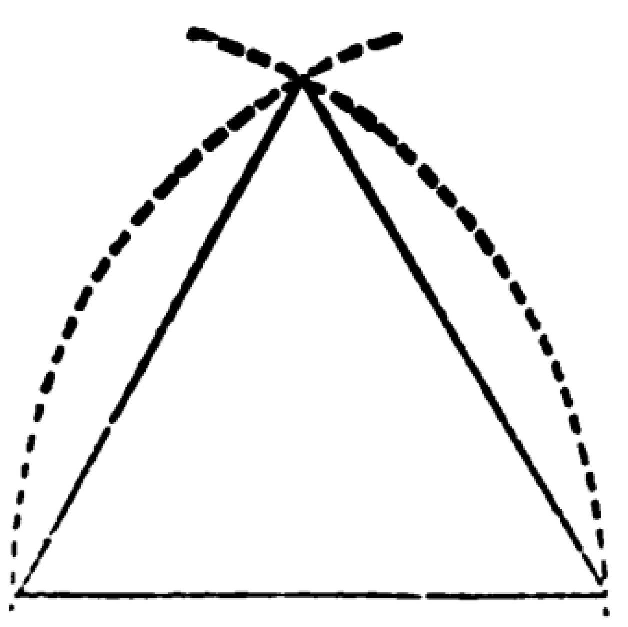
丙圖はポンプの雛形を縮圖したるものにて其全長は凡曲尺の一尺ばかりあります。

（四五）已に御學びの書法を應用して圖丙よりも今少し大きく書くことをお試しあれ。

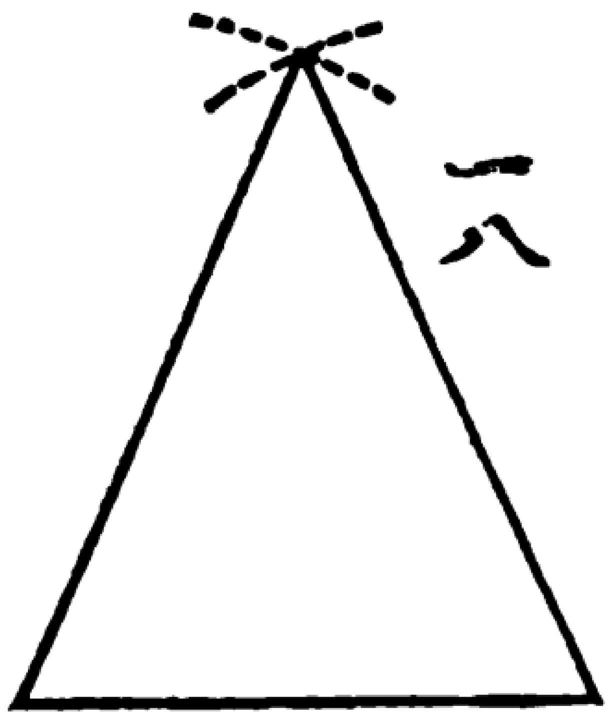


丙圖

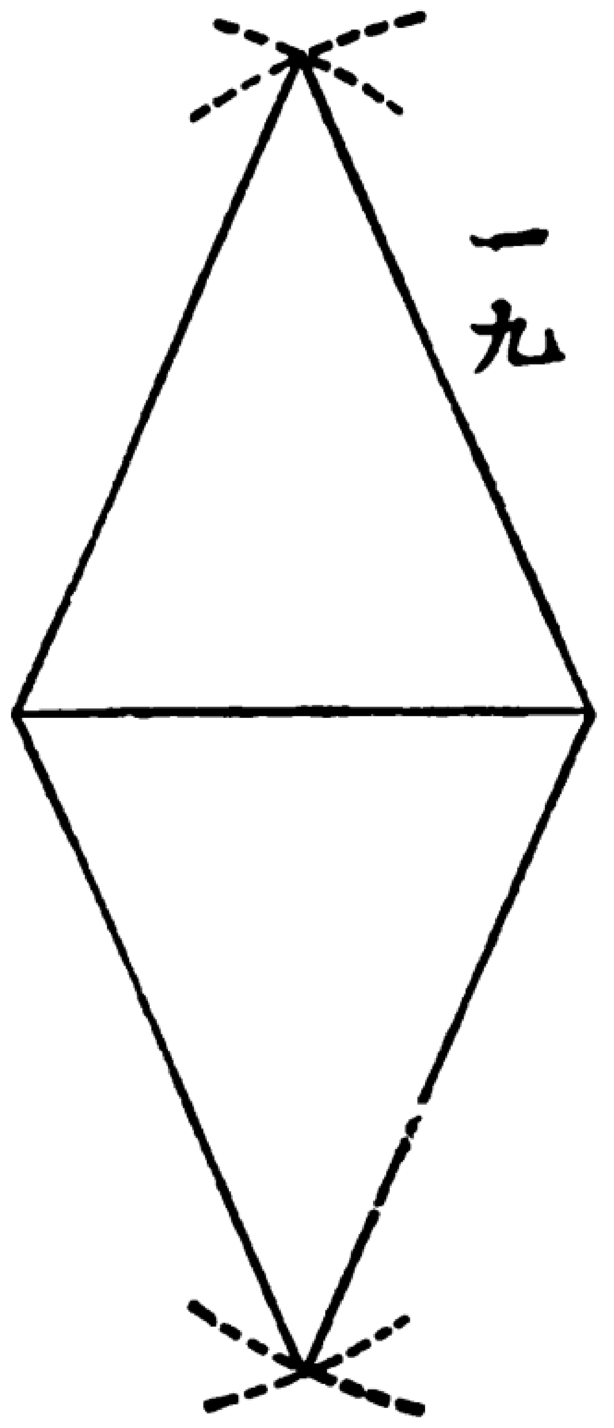
丸き筒が通常人目に見ゆる有樣は丁度

のやうでも然るに丙圖に於て圓筒の端を楕圓形にせず

の如く直線に書きましたが是は畫の一法で丙圖のやうに畫く法を投影畫法と申しまそ器械又は家屋等の圖を多くも此畫法によりて畫くのが便利です。さて是迄にお話し申した畫法を他の種々な畫法と區別しますれば此迄のを幾何畫法と申します。已に御承知の通り是迄は平面形とて長と幅とあつて厚さなき面の畫法のみお話し申しさるなり、次回よりは厚さもある立体を寫す法卽投影画法で前のポンプの圖のやうなものです。投影畫を作との譯柄ハ此に至て必了解になりましやう。



一八



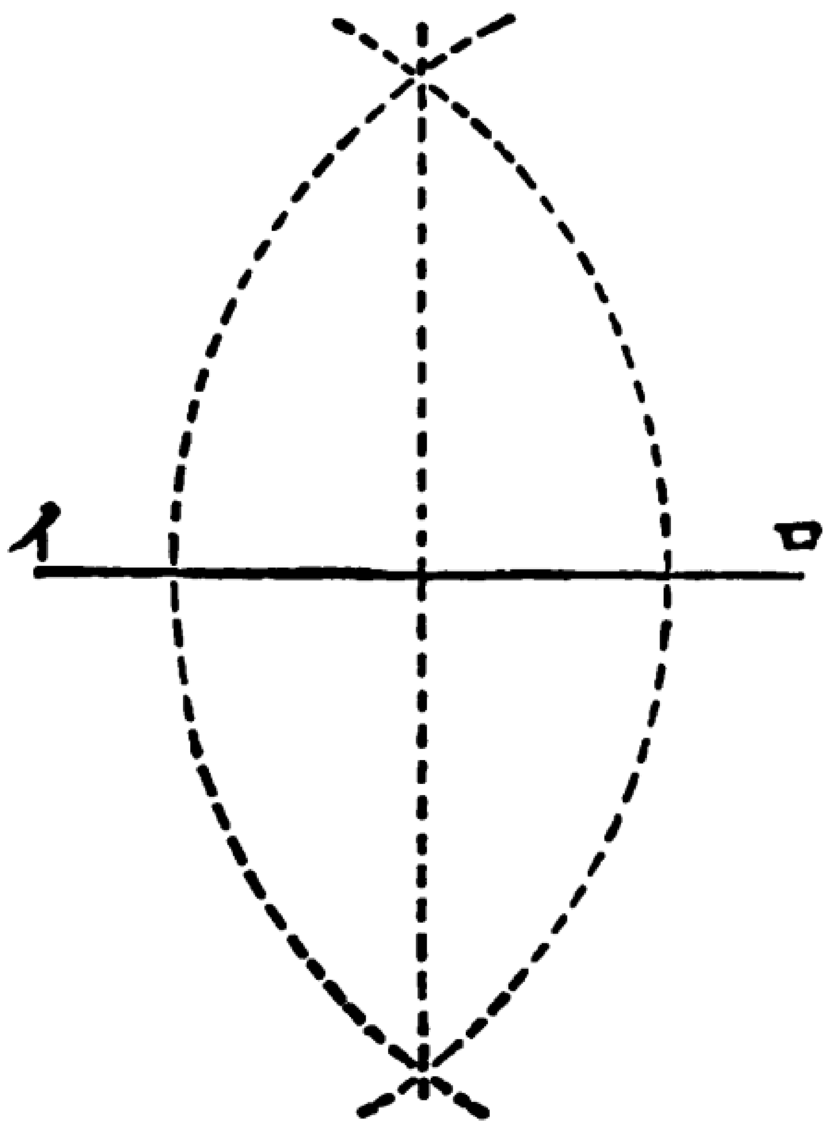
一九



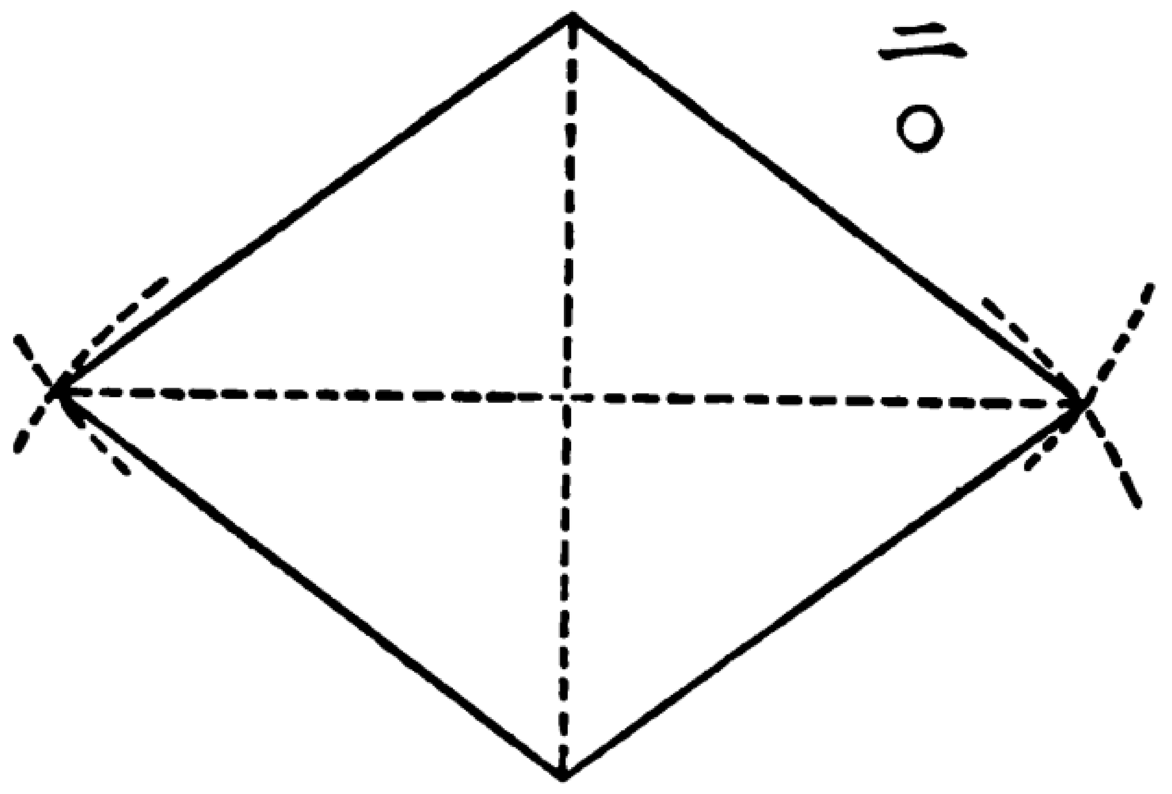
用器畫法の答　第十三號の部

等邊三角形の畫法は上圖の如くにして其弧ハ鉛筆の端が經過したる痕跡を表するものなり。

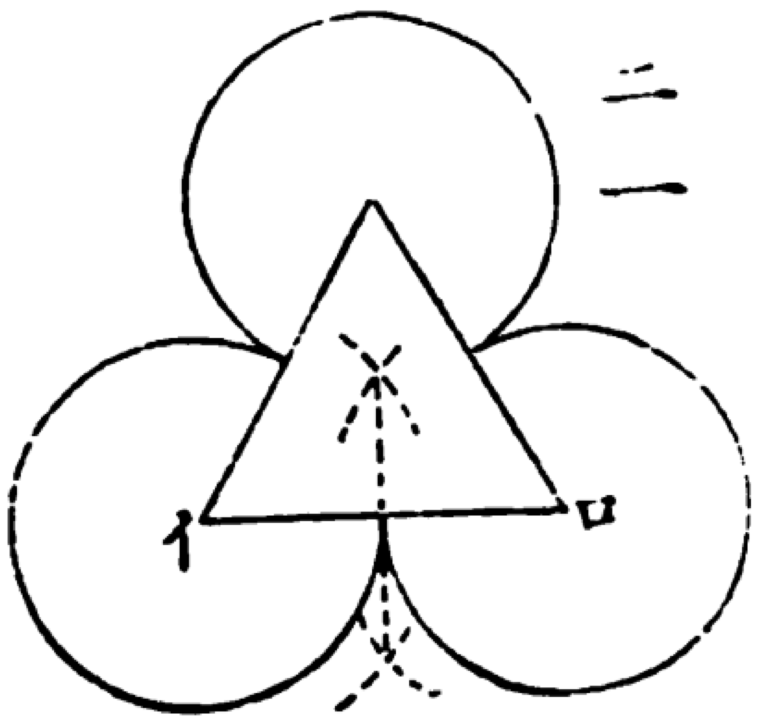
直線を二等分する法式

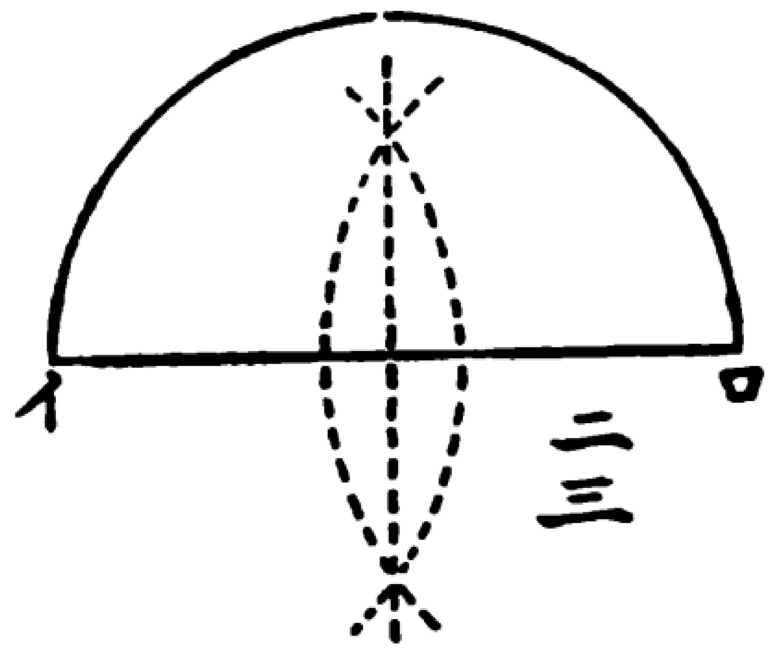


二〇



二一

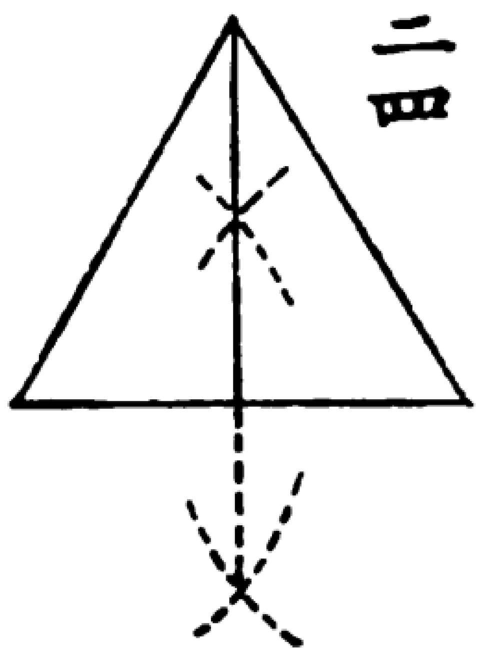




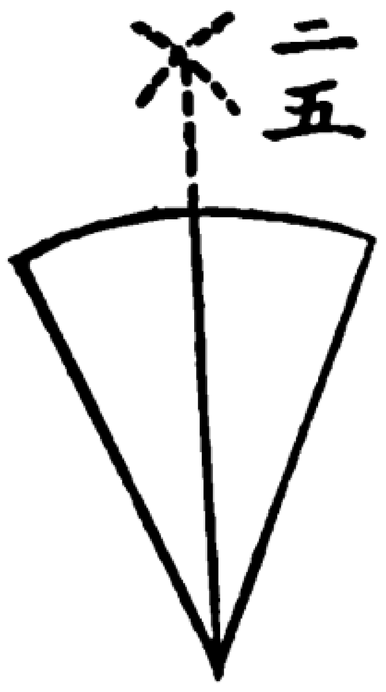
二三

(二十一)前題の畫法によりて任意の菱形を書き其相接する二邊を各二等分し其各分點より各他の一邊を平行そる直線を形内に引くなり。

(二十二)(イロ)(ロ)は即ち弧の直徑に等し又此法式によりて四、五、六等の弧をも書ろき得べし。

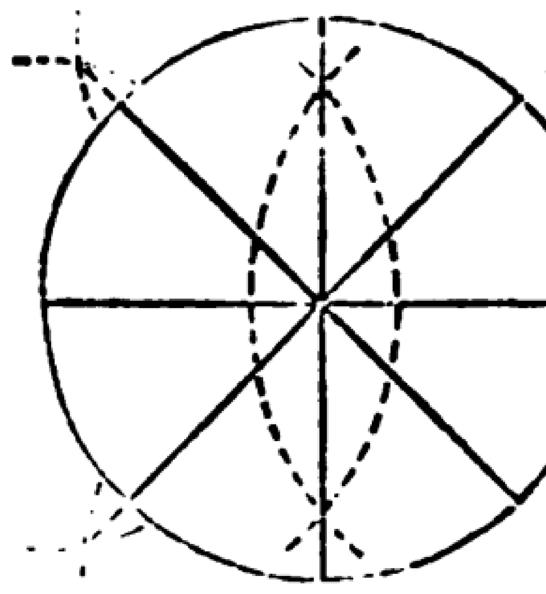


二四

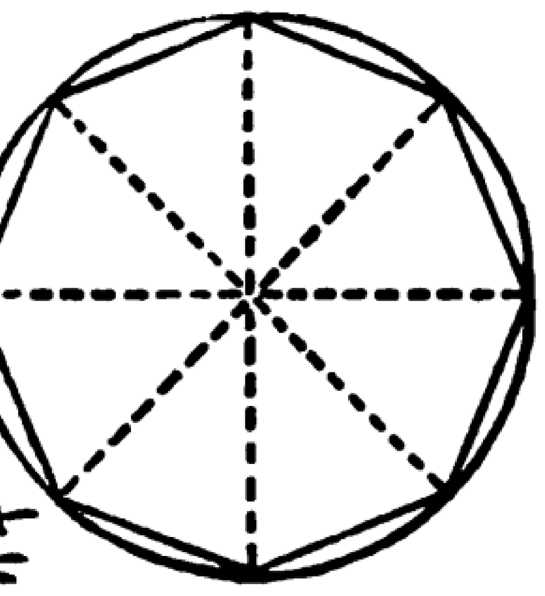


二五

一六



一七



（二十八）別に答式を要せざるべし。

幾何畫法の法式はまだ／＼澤山ありて殆際限なきとあがら通常必要の分は述べ了つた積りですから一先ごゝで切上ますが此外の事で質問の出るを待つてお答いたすとといふしましやう

文藝美術

聽音法

夢の屋かをる

總て音樂を學ぶに耳力の大切なるは申すまでもありませんが聲樂即唱歌には殊に大切です　西洋の諺にも「善聽者善唱」と申してある通り如何に天禀の美聲でも耳が鈍くては迚も正しくは唱へません之に反して天然の惡聲でも耳さへ慥かなればいつの程にか上手となります　シテ見ると唱歌には是非耳が第一で耳の善いのは眞に千金の價です。さてどうすれば耳に千金の價が持せましやう　私の考では聽音法の一課を勵行するより外に良法はありません。

聽音法には元來指答、唱答、書答の三法がありますが教師の手をからずに朋輩同士で遣つて見るに好都合なのは書答法に限ります。

先づ書答法より述べましやう。

聽音書答の順序は

(1)銘々に紙切と鉛筆とを用意して樂器より凡そ一二間の距離に座を占め

(2)其内の一人を發題者と定めて樂器（ピアノ、オーガン、ヴアヰヲリンの類）に就て問題を彈せしめ

但一問題を彈ずること三回に踰ゆべからず

(3)銘々聞取の結果を紙に記して發題者に示し

(4)發題者は即時に答紙を調べて其當否を聽音者に告げ

(5)皆中者は喜び不中者は………

大略以上の通りです

最初の中は天禀聽耳の人は格別凡庸一般の耳では先づ百聽百不中です例へば(1)(2)(3)ある題問を(1)(3)(5)又は(1)(4)(6)などとんでもない聽き違ひをやりますが此等はまだ頗る上等の部

甚きに至りては123を111又は222の樣に棒なりに聽き取る人が幾らもあります。併し度々試むる内にはは追々聽きなれてきて不知不覺聽力發達の境に達しますから一二度の不出來に懲りずに何んでも氣永く遣って御覽なさい急度好結果のあるは私が充分に受合ます。

また問題は最初の内は成たけ平易な音即ち順次音にて構成し漸次に跳越音に及ぼすが宜しいです。又一問題の長サは二小節、四小節少し進みて八小節位が適度です尤も八小節の問題を一氣に彈してはナカ〱聽き取れませんから二小節か四小節に小分して彈ずるが宜いです左に問題の例を少々掲ます

(a) 1—2—|3—2—|1—0—‖

(b) 1—2—|3—4—|3—2—|1—0—‖

(c) 1—3—|2—4—|3—2—|1—0—‖

(d) 1—3—|2—1—|4—2—|1—0—‖

(e) 1-2-|3-2-|3-4-|5-0-|5-4-|3-4-|3-2-|1-0-‖

(f) 1-2-|3-1-|4-1-|5-0-|5-4-|3-5-|2-5|1-0-‖

(g) 1-3-|5-0-|1-4-|6-0-|1-5-|6-4-|2-5-|1-0-‖

また聽音法は始終唯一の調で試むよりも種々の調で試むる方が遙かに功能が大きいです例へば 1-3-|5-0-‖ ある問題を三種の調に移せば即ち高低三樣の結果が現れます。

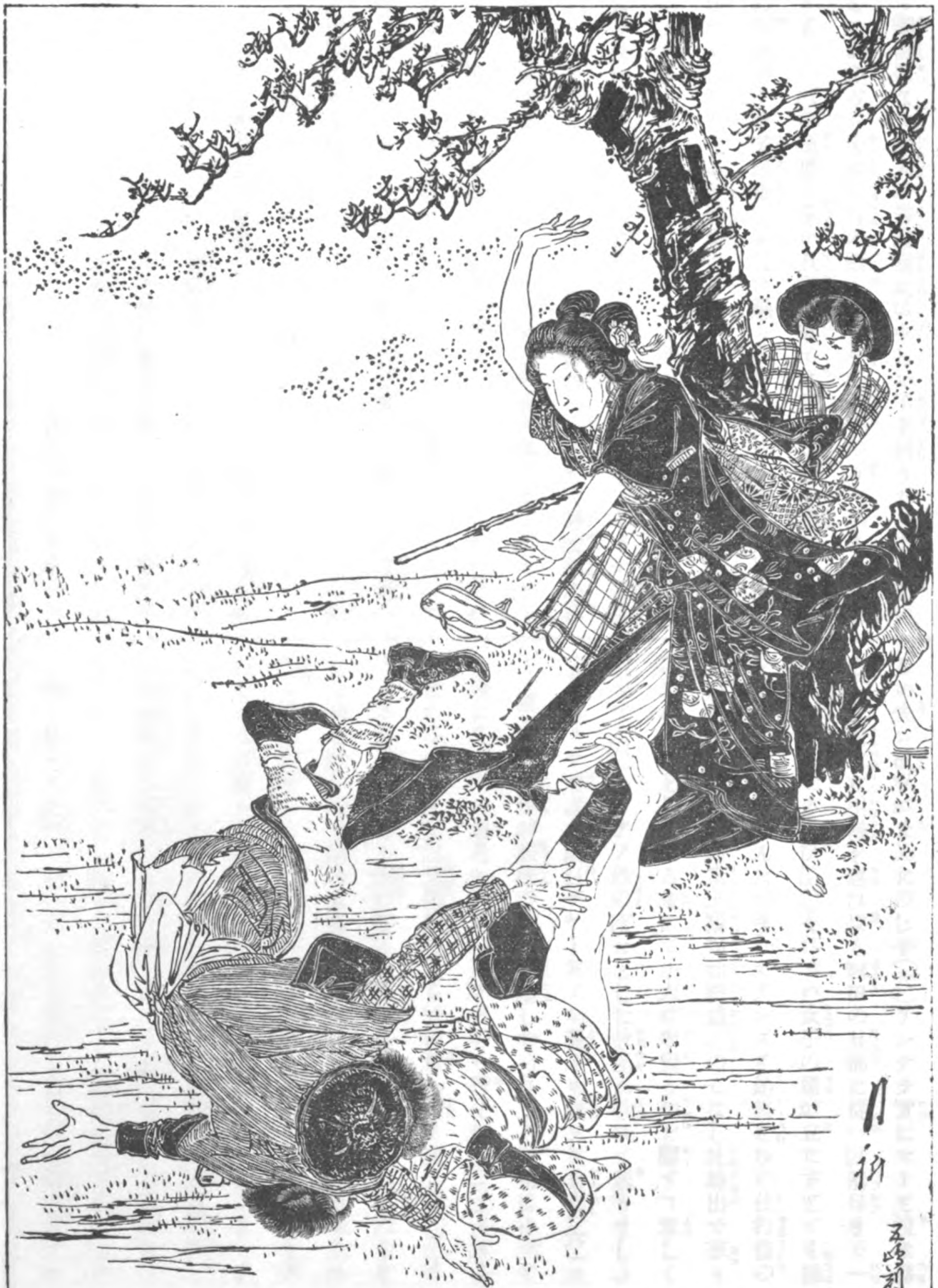
次に指答、唱答の仕方をお話する筈ですがあれは重もに小供のする事で大人には格別妙でもありませんから略します。

柳櫻都錦繪（つゞき）　立花屋かをる作

上手より書生三人好の拵へステッキの先に一升樽をさげ生醉にて出來り（甲）ヤヽ別品々々束髮の上等束髮を下から讀めば糞の髮（乙）コレ〱失敬ナヿを言ひ居るナイヤレデー交際の爲め一杯獻シやう（清）難有うは存じますが歸りを急ぎます故（蘭、輝）御免なされて下さりませ（丙）イヤ十九世紀に於て日本に女權を擴張し遂ては參政の權を得るに卿等を措て他に有らんや御近きの爲め壯士の杯を受け給へ（甲）然り〱男女交際は今日の急務…福助の寫眞許り珍重する劣等令孃ナライザ知らず卿等は實に文明の先導者じやサー是非共飲み玉へ（丙）夫れ共僕等の衣服の惡い故輕蔑するか（清）そう致しまして（乙）ソンナラ飲むか（蘭、輝）夫れでも御酒は少しも戴きませぬ故（甲乙丙）ドッコイそんなら僕等の酌をし玉へト（甲、乙、丙）は（清、輝、蘭）の袂を捉へていやらしき仕打色々ある三人は茶家女ト共に色々詫る（甲）そう詫るなら酌をするか（清）サアそれは（乙丙）サア（清）サーと縲上とありいやがる輝清蘭三人は酒樽を

さしつけて追ひ廻すトタン樽を蹴して酒をこぼすこれにて三人は立腹のてなし(甲)コイツ僕等ハ相手を拒むゞ上能も酒を翫させたな(乙)　非常に無禮ナ奴ダ(丙)ヤッつけろ〳〵ト杖を以て擊て掛る(女)早く巡査らは出であされはよい(甲乙丙)巡査も警部もいる者かト(清、輝、蘭)ハ手込みに逢ひ既危くあるこれにて清子はつか〳〵中に入り甲乙二人を突飛ばし丙の手を捻ぢ上げ輝蘭をかばへキッとある(甲)アイタ……(乙)ヤア顏に似氣なき此有樣よくも僕等を(甲乙)投げをッさナァ(清)サ何事ゾ花見る人の長刀枝も鳴さぬ春の日に雪と見まがふ眞盛り風さへよけてあるものを情を知らぬ犬櫻垂絲櫻のしとやかに一重二重に八重櫻お詫びサそもおきゝあく益々猛る仇嵐櫻危險き酒の醉と下から出ばつけ上り女子と侮り落花狼藉少しはお懲りト又捻ぢ上る(丙)ウー……(清)遊ばしませト見事に丙を投る(二人)ヤアかへそ〳〵も不敵な女郎め叩き殺せと一度に擊てかゝる(清)はあれと一寸面白き立廻りあり三人を投退けキッドなる三人ハかなはず逃にゝくる(清)ハ甲乙を捕へる丙は下手に逃て這入るパタ〳〵にあり向より巡査伊東峯三黑の制服帽子サーベルにて出來り(伊)取締法も嚴しきに群集の中にて亂暴狼藉能くもお捕へ下されしト甲乙の面を見て

(伊)ヤヽ其方タチハ一昨夜脫檻なせし御尋ねもの(甲、乙)コイツハ堪らぬト逃にゝくるを(伊)ハ手早く繩をかけ清子に向ひ(伊)シテ御身の御姓名ハ(清)ハイ妾は根岸金杉村百三番地に寄留致します竹山貞軒の養女清子と申します……拙き柔術が御目ニ掛りお恥しうムりますト愧かしきこあし(伊)ハ(清)の面を見てチット　仕打能女ダと始終見惚れる(輝)どうなるとト思ひましたに清子さんの御骨折にて(蘭)危き難義をお救ひ下され(二人)難有う存ますト嬉しき仕打此の中(伊)は手帳へ姓名を記そと宜しくあり(伊)當代女子には稀なる柔術のはたしあみホトンド感服致しました然し手續上御身にも尋ね度き儀もムれは黑門町の分署までお出下され(清)かしこまりましたソンナラ御二人樣御きゝの通りの次第あれば茲では別れ致し升(輝)左樣ならお蘭樣は一所に(蘭)は先にはお免を(蘭輝)蒙り升と兩人は清子に會釋して上手へ這入る(伊)は甲乙の繩を取り氣を揉む(清)を連れて下手に這入る下女三人は捨臺詞にて清子を色々褒めると宜しく有ッてそこらを片付て奥へ這入る時の鐘になり跋戸を開き以前の小六窺ひ出でホット思ひ入れシンミリトした合方になり(六)情ないハ御母樣妾と立川樣と譯ある中を知りながら如何に襟に着くが當世とて披露の時か



Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

ら御信切な大恩人の芳雄様此頃少しお不手廻りでお出れ無いとハ云ながら妾に一言の断り無く今の旦那の方にやるとは餘りといへば御道慾…幸い旦那ハ寐て居れば此所を逃れて神田に行きドーカ芳雄様にお目に懸り又分別もせねばならぬそうじやト立うとする此時奥より三八出來り(三)六ちやんお待ち(六)ヤーお前ハ三八さんソンナラ今の様子をバ(三)殘らず聞きたが惡い量見(六)デモ御慈悲にどうぞ此塲を(三)ソリヤ見逃してもあげようが小六ちやん假令神田へ行たとて芳雄様に逢ふとは出來まいぜ(六)ソンナラ若しや御内儀でも(三)チツトソンナ浮タ話ぢやない彼の若旦那ハ(六)ドーヅなさんしたかへ(三)チヽ今ハ押籠だ(六)エ……ソリヤ本間でムンスカ(三)何ーニラそを云ふ者か咄すも實に涙の種立川様デハ大旦那の御留守の中に親類に夫ハ〳〵腹黒い何とも云奴が有り心の儘立川様の身代をば自由にする邪魔になるとておいふわしや少シの遊びと御性分の疳癪をトツコニとりアノ御孝心ナ芳雄様をヤレ狂氣とか阿房とか奥様をさへまるめこみとう〳〵若旦那は庭の離座敷に押込られ三度の食事も御十分ならず誰れか御尋ね申して御病氣の御毒と親類共が決して逢せぬトの邸近邊での噂とり〴〵中〳〵御前が行ふトテ御目に掛れる事でハ

ない夫レ故私が止めたのじや(六)ソンナラ實にマーと泣き落そ(三)夫故立川様を思ひ切り秋田の旦那に從へば阿母まで一生安樂に暮せる幸ひ(六)それでハ女子の道が立たずとても操を破るなら妾や死んだがましでムンスと始終愁ひの仕打後の障戸を少し開き秋田富三窺ひ始終感心のてなし此時出で來り(富)小六何をして居る是にて小六は喫驚り愁を隱す了宜しく有ッて(六)ハイアノ餘のぼせました故風に吹れて居りましふ(富)コリヤ飛ぶ七段目ヂヤ…其ノお輕にも勝ッた貞女(六)エー(富)イヤ阿母が松源でサヅ待遠しからう三八手前は小六と一所に先へ行て居ろおれハ一足アトから行くから(三)ヘイそんなら小六さん(六)旦那様あちらで御待ち受を致し升(三)サアー御出デナサイト唄になり三八ハ去ほ〳〵とする小六をなぐさめながら向へ這入るあと富三は見送りホロリと思ひ入れ宜く(富)女中〳〵〳〵(梅)ハイト奥から出來り(梅)あれに御出てござり升たか(富)水を一杯下さい(梅)ハイかしこまりましふとコップへ水を汲み盆に乘せ出す(富)醉後の水は格別〳〵〳〵女中今日ハ異事に厄介で有ッタノー(梅)まことに御かまひ申しません(富)ドレ除々ト歸りませうト懐中時計を見て…ウー最七時カト此時バタ〳〵になり向より三八向ふ鉢卷してゐ

け來り(三)旦那樣大變〳〵少しの間に小六さんが何所へやら逃て行ましタ(富)ナニ小六が逃たと…若もの事が有る時には心盡しも水の泡此時薄き雨車になる(三)ナアーニあわてゝお知せに參りましタ(富)是れも手前がト三八を突き廻すを道具替りの知せ」とぢだからだト此の摸樣薄き風の音雨車にて道具廻る……

寄書

如何に女子を敎育すべきか

竹嬢

御社皆々樣には壯健の段はよろこび申上候。扨て皆々樣には盡力の効日にあらはれて當靜岡縣下など日増しにいらつめ愛讀者相殖え候ほど故御社の御隆盛察上候。偖て姉松嬢事御社皆々樣の御引立を蒙りられし由毎度音信有之妾よりも厚く御禮申上候。就きましては皆々樣の御志の程度々姉より承り大にあり難き御思召具に感心仕　及はずながら御助勢仕度付ては此度おこがましくは候得共見出しの如き最も重要なる又最も六かしき問題を解き世の女子を持たるゝ親子達の參考ともなれかしと存し差上候が到底充分なとは出來ませぬ故よしなに御推もじ願上候

偖て世間娘もちの親の内心に立入て考へ候へば夫は夫は實に御心配の事で並大低の事にては御座なく候。　一寸親達の述懐の大畧を窺ひ候へば。

ア丶娘も尋常科を卒業し年頃になつたがサテ此儘に置く譯にもいかない。　ドウしても今少し躾をせなければ當方であの人と思ふ人は貰らひたくてもくれまい……無學の人にやるのは無論いやだし　ドウしても學校へ入れねばならん。　けれども今の女生徒はタヽ生意氣になるばかりで單衣一ツ縫ひ樣はしらず碌に洗濯もできず……キーミが代を覺えた處が家内の幸福を得られもすまい。　ヤレ同權だヤレ同等だヤレ本日は交際會だヤレ本日は音學會だヤレ本日は婦人會だとて小供はモリの背中に任せ家内の事は老婢に任せ……ソシテあの英學とやらは稽古してなにになるだらう?　又ヨシ出來たにしろ今の日本にナンの役に立つだらう?。　英語が出來た處が早口になつた處が行儀はしらず客が來たとき鼻先であしらひ親の前で兩足をつんだし、叱かれば今の女は卑屈だとて椅子に腰を掛けなれたから長く坐れないとか減らず口を云てソンナらどれほどの人物になッたかと云へば縫物も子育も料理も洗濯も拭き掃

除も凡て妾達がするとは一ッも孫には出來ないで是から先きはどうなるだらう。ア、困たもんだと云て此儘おけば毎日グヅられるしソシテア、娘の云ふやうにい、婿が取れんかもしれない。　ア、どッちにい、學校はないかしらん。近頃は學校も商賣氣質で生徒の爲は思はないでよしあしはかまはず時好に投して一人でも生徒の殖ゑるを望みどれもこれも可愛い子供を任そなどの學校はない。　けれども一ッばかりはありさうなもの。　がよしあッたにしふ處が別に東京に知り人がないから預ける處はなし。　と云ッて下宿をさせれば今こそ口そくなでしとやかな子だけれども去年の夏木村さんがお談しなすッた女生徒の噂真逆とは思ッふが全く嘘でもありますまい木村さんの噂に女生徒が寄ると觸ると敎員の惡口道で逢ふ男や婦人會交際會の男の批評。未來の婿定めお友達の品定其内に得意の無駄食。

あなた羊羹は賛成か……ナニ賛成　　ソンナラ二錢出し玉へ。　三人では足らん．　　今アそれ丈よしておいて晩又買はう　　手を打つ聲ポン〱

へーイ。　六番で々燒芋だよ。　イクら女の好きなもんだッて毎日三度も四度もホント驚くネーお芋屋でお通ふなさッてはッて云ッたが尤だネー。　ソーシテドウだへ。

初めの内はがヤ〱ワヽヽ、がピシヤット止まッてムシヤ〱やッてサ其内すこしお腹がたまると長アくなッて話しながら食べてサお坐敷中お芋だらけにしてネー。　ソレでも奇態だよオッに色氣があるからネー

ポン〱〱。　へイ。　五月蠅ネドラいから。

ア、東京へも澤山出ておゐでるのだから皆さんがコンナでもあるまいがコンナになる位なら家においた方が……内において行儀が縫物を敎へてお出來なさらないなら御親父さんに本でも敎へて戴く方がよッぽどよからう。　塾だッて同じに違ひない。　ア、困たものだ

右は聊か娘を持つ母親の心中を寫し出し候積には候へ共是は畢竟思過と申すものにて其境界に入らずして外見より想像いたし候ては間違勝のものに御坐候。去りながら此母親の述懐も子を持つ親心さあらぬ事まで心配いたし候も全く無理ならぬ事と存候。女子の敎育に付きては兎角思敷參り兼候は矢張敎育の方法の定まらぬ故かと存候。敎育の事に付きても体育は一ッのけものと致し智育德育の受持を定めますれば西洋では德育は家庭の受持智育は學校の受持と相定り居候由承り候

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

勿論學校では德育を打遣るといふ譯にてハこれなく唯智育が大部分を相占め居ると申儀に御座候。御承知の通西洋にては確と定まり候耶蘇教ても人心を支配いたし澆季の世の中とても申ながらまだ〱大した勢力有之たとひ教會は不義の媒介所などいふ惡評あるに致せ西洋の德義を維持いたし候は耶蘇教に相違無之と存候。然るに我邦にてハ孔子の教武士の氣質など申事も稍遠く相成佛教もさほどの勢力無之。さりとて議論固の道德論も人心の上に感化の功力有之候ものにや疑はしく存候。ケ様の有様にて德育の方では丸で手の付けやう無之様に被存候　左すれバ如何にして家庭の德育を授けべきやと申事に相成候

（つゞく）

新刊批評

新文學誌

宮崎三昧氏の編輯で、神田裏神保町の新雨文社から發兌せるものです。　學海居士の新雨文社の記及び六風一篇、三昧道人の二日一夜の記、其他篁村子の種彦傳などが集めてあッて隨分ちらでろしッかりした文學の一雜誌です。　去かしこの雜誌發兌の趣意ハたしかに書いて無く、わづらに學海居士の記文で一寸推せるばかり、これも褒めれば目先が變ッていゝとでも言ふのでそ。　まだ最初ですからいづれも序びらきだけが多くて十分に批評は出來ませんが、去かし飾らずに言へば三昧道人の二日一夜の記には兎角「ダリ」といふ癖が有ッて、その他ちと穩で無ささうな形容が有るやうで、また雜やらの八笑人の評ハ流行のウズの中へ卷込まれたものらしいです。　わるく言へば右のやうですが、しかし文學のためには有益な雜誌であるといふ事ハたゞ滑稽や駄洒落を主とした雜誌の比較にはなりません。　聞けば宮崎氏もこのしみにこれを發兌されるとか、ちさもともの事ながら世間の駄評をば思はぞ、賣れる高の如何に關せぞ　体裁をば强て飾らぞ　極質朴にして極實をもたせ、そしてこの世界に文筆の熱善を爲されるやう影ながら願上ます。

文明の母

鐵筆將軍大矢森之助氏の編輯で　深川諸町の生文社から發行になる婦人雜誌です。　如何にも女子教育に熱心で爲されたお作、まづ色々なお友だちが出來たのをば喜びます。　ふと一すまだ誰も言はぬ表紙について惡口を申せば　流蘇が上へシヤチホコ立ちをして居るのは一目理に替つた考が浮んで來ます。　あれはいらぬ。

晃山記遊

跡見花溪女史著。　禁賣買
書法といひ、畫といひ、体裁といひ申分の無い紀行で　中の文のいゝ處は大抵洞齋と聚亭の二氏が評しつくしてありま

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ぞから記さば同意を表するだけ別に何も云ひません。さゝ
その中の和歌二三首を世間の淑女がゝに御紹介します
「哀とてなく虫山の秋の頃月も流れにすみまさりけり」。
「赤城山しらぬ黒髪きて見れば同じみどりの夏木立哉」。
「曾の根の長きすか川とめくれば水の音寒く千鳥鳴也」。

情

麹町區飯田町五丁目眞情社から發兌の雜誌で、其心及び感情の勢力擴張、倫理道德及宗敎の遊軍ださうです。日本にまだ是ぞと言ッてたしかな心理學の雜誌も無い處、どうかこれも次第に規模をおしひろめてそれを專門とするやうになれば有益なものとなりましやう。

都の花と小説華錦及びこがね

都の花は弊社の山田などがあしらへた小説雜誌、小説華錦は春陽堂から出る舊作の小説雜誌、更に此度はまた春陽堂から南翠外史の主筆で「こがね」といふ新作の小説雜誌が出るさうで、われ〳〵は國のため文學が盛になッたのを何より喜びます。

女學雜誌の舞踏論

これは同雜誌第百三十四五の二號に出て居るので寸分の隙も無い論説です。舞踏についてはまたいらつめでも何か惡口を言はうとした矢先、もはや是では いらつめが喋々するにも及びません。

通信問答

倉子孃へ　簿記學についての色々な尋、婦人が簿記を修めるのは非常に結搆なことゆゑ力めて答をえます。

この西暦千八百六十一年ゟ千八百七十一年までの十年間に英國で婦人の簿記學家がにはかに三百人以内から千五百人に殖ゑ、これらの人は皆それ〴〵銀行なり、會社なり、工場なりへ入ッてその番頭となッて居ます。全体英國は商業の國でそのに、それ迄婦人の簿記學家が殖ゑなかッたのは太甚妙ですが、然かし終に時勢の必要には迫られることと爲りました。従ッて色々婦人に簿記を敎へる學校が出來ましたがその中第一なのは婦人職業奬勵會(ゼ、ソサイエテイ、フオア、プロモーチイング、ゼ、エムプロイメント、オフ、ウ井メン)などで月謝は一週間六ペンス(凡我十二錢)で之に入學する婦人の資格は第一、算術に達して居ること、第二、語學に通じて居ること此二ッが主な點です。これで其處を卒業すれば保証の証書を學校から呉れ、それを持ッて何處へでも雇はれるのです。あの學校の保証を持たないでも雇はれなくも有りませんが、通常その給料は通勤の者に一年六ポンド乃至十八ポンド(凡我三十圓乃至九十圓)で、通勤で無く、その家に止宿して事務を執る者に一年十五ポンド乃至三十ポンド(凡我七十五圓乃至百五十圓)のくらゐです。が、もし前の保証を持ッて居れば、雇はれたばかりで直に一週間十五シルリング(凡我三圓七十五錢)、すなし經て十八シル

リング乃至三十シルリング（凡我四圓五十錢）すなはち一年三百六十圓前後の給料を取ります。簿記學に就ての出版物は彼是澤山ありますが記入法ばかり書いた書物はあまり爲にはありません堀内正善氏著の普通簿記學（博聞社出版）は議論正確です又竹田等氏著の官省簿記學（是も博聞社出版と覺ゆれども慥には知らず）は最綿密です。又經濟雜誌社で出版した藤尾錄郎氏著家計簿記學は家政を掌る婦人方の一讀せられたき書物です。

山梨の栁子孃へ　（一）御たづねの顔の色を白くする法は無効の物でも有ません（二）またおたづねの毛生藥も効能は有ます

上總の栁子孃へ　葱、辣韮などを食べて口中の臭くなッたのを治すには生の芹一本を嚙み、熱い湯を飲むのがよろしいです。もし生の芹の無い時には艾を直徑三分程に丸め、火をつけて揉消し、それを暫時口中に含のがいゝさうです。

石川しづ子孃へ　カバンの汚れたのは何處で洗ふか存じませんが、通常ブラッシに炭酸を溶解した水をつけ、それでそろ〳〵擦り、洗了ッてから後牛の脂を烈しく摩擦して塗ります。

戸野ふけ子孃へ　御尋ではありますが音聲は鼻のこしらへと頬の工合と聲帶の廣狹に本づいて出るものですからとても藥や何かで直るもので有りません。が、次の法、これを御用ゐなされば幾許か咽喉へさはらず出るやうに爲り、それを加減して更にうるはしくなさるのは御熟練次第です。

甘草五分　乾姜一匁　桔梗二匁　烏梅五分

右四味を粉にして日に二度づゝ小匕に一杯程御服用なさい

生駒うた子孃へ　（一）白地の着物に墨のついたのを落すには生餅で吸取らせるのが一番です。（二）熨斗はどうして用ゐはじめましたか、これには俗説が多くてまだ考がつきませんから終尾に疑問として置きました。（三）女文章のめで度かしは矢張り愛度可祝といふだけの意味です。「可祝」といふのは當字で是は「かしこ」で、古文の終に「あなかしこ」などゝあるその「かしこ」です。

柴田ゑん子さまへ　（一）唐縮緬をフラン子ルに似せるにはまづ唐縮緬にシンシを掛けて釣り毛の柔いブラッシにどろ〳〵の石鹼をつけてその縮緬をすこしづゝ擦るのです。これでも干上がればかなりなフラ子ルまがひが出來ますが、猶うまくするにははじめ唐縮緬を臼へ入れ、清水をかけ、そろ〳〵と滿遍なく搗き、それから張ッてブラッシで擦ることです。（二）脚氣病再發の患を除くはよく其筋に聞合せ御返答いたします。（三）髪の薄いのが濃く爲るのもやはりいらつめ第十三號化粧欄内髪毛を保存させる法とある法で十分出來ます。

かゑる令孃へ　砒石を呑んで顔の色を白くする法は危險ですから御傳へまをしません。

冬姬さまへ　（一）やはり運動をよくして食物を加減し、そしてよく沐浴をなされば決して甚く肥過ぎることはありません（二）美人の事を別品といふのは野鄙な言葉です。淑女がたは「美くしい女」とか「よい女」とか又は「よい標致」と仰るのが宜しいです。

たより孃へ　縮緬をはじめから黒にするのは餘儀ないことを除くほか不經濟です。貴娘の御年頃といひ、今は空色

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

にでもお染めなさい。　後、空色がすたれて來てから何なりと他の色にお染めなほしなさい。

何巾亭さまへ　（一）お申越の餅案集、雨中吟未來記、氏與入及び、明月記などはいづれも刊本には爲ッて居ません、皆寫本です、　餅案集は一圓五十錢前後、未來記、氏與入は世に多くありません。　また明月記は二十巻のもあり、四十巻のもあり、また五六十巻のもありますが、まづ百巻の物が一番正しいもので、百巻全備したのも定價四十圓前後、その餘は品に應じます。　（二）三鏡とは大鏡、增かゞみ、及び水鏡を云ひ、孰れも皆刊本になッて大抵の和書を賣る家にあります。（三）日に燒け三分、生れつき七分の色黒い肌を治すのも安全なのもいらつめ第十二號にある色を白くする法を用ゐるのです此他にまた烏爪の根を細末にして赤土と水と等分の混和物に三分の一ほど入れ、一週間貯へて後その土のチリを捨て、上水を瓶にたくはへ、毎夜寢る時顔へぬり、翌朝清水であらひ落すのです。（四）レモン水と申しされは惡うムいました。あれはレモン液です。　薔薇水もまた同樣。　いづれも純粹生一本のものです。

大江ふゆ子孃へ　麝香鹿のついて居る記號の香水はロンドン製で白薔薇から取ッたものです。　定價も九十錢、六十錢ぐらゐのもありますがそれは下品です。

疑問

熨斗の濫觴　をたしかにお答になッた方へは生駒うた子孃にかはッて記者がお禮にいらつめ一部差上ます（その答を載せた分）。

論説

職業の天恵　中川重麗寄

女子の世界を其軟弱より其弛緩より又其淺薄なると逸樂に耽り易きとより救ひ出す金字の護符は唯一の職業あるのみ女子の社會の最下より最高の絶頂最貴の峯頭に達するまで各自の一身に課せられたるものは職業なり是を以て女子たるものは此の意を體し我々女子も亦是れ人世に活動する一大鐵鎖の細節なれば皆活動せざるべからず奮勵せざるべからず一人として遊手徒食して此の世に立つこと能はずとの覺悟なかるべからず。

女性の生活は國家の文明實用の運動及び人間の愛の爲めに缺掌すべきものにて此の生活は決して富能く之を生まず美能く之を生まず愛嬌も亦能く之を生まず唯獨り職業の能く之を生むあるのみされば女子たる者は「妾は何を爲すべきや妾が働くべき範圍は何處にありや妾は實に男子には非ず」などとは決して言ふべからず女子にして若し職業を爲すの能力を有しなば女子の腕女子の心及び女子の精神は到る處に働くべきの地あるを知れ然れども悲哉女子の腕前は軟弱なるもの多く麻痺せる者多く精神も亦多く岐路に彷徨し心も亦貧小なる者多

きに如何せん

蓋し男子は粗と大との世界を造り出すのみ男子の手に成りし政略の爲に生したる戰爭の負傷を癒すは抑誰の手に要するや又男子の手にて堆積したる學術の結果を採て之を實地日常の生活に利するは抑も亦誰に任すべきや又數百年を經て進歩せし文明の一惡果なる貧富不平均の社會的の大問題を解るにも亦婦人の手を藉るに非れば爲し難し然れども斯る重任を負ふべき婦人は嚴正なる職業を執るに嚴正なる意志と嚴正なる勉強とを以てするものに非るよりは決して其任に堪へざるなり

男子の働きは種々の狀況あれども要するに皆外より來るものなり女子の働きは之れに反して皆自から內に感ずる刺激より起らざるべからず自ら求めて職業を造り出さゞるべからず而して婦人の能力如何は實に此の職業如何によりて判するを得べし縱し此の刺激の胸中に昏睡するものあるも百方自から之を喚び起し嚮導するの手は缺くることなし然れども世には日々其額に職業の眞珠を飾らざるの婦人甚だ多し斯る婦人の爲めにも大陽も空しく出沒するを悲しむなるべし故に此の如き婦人には大聲疾呼して先づ人たるものは第一道德的の義務として業を執りて働くべきことを勸告せざるべからず我々は實に此の聲の彼の懶惰と逸樂に睡眠せる絹蒲團の上にまで達せんことを希ふなり我々は實に此れ聲が飽食暖衣閑に苦しむ婦人の耳に入り「人に皆職業あり殊に卿等に職業あり」と命せんことを欲するなり是れ一に婦人の尊貴と婦人の威嚴を彼等の上に喚醒さんが爲めなり彼等の精神を強壯になさんが爲めなり懶惰と逸樂とより湧き出る慾情の痛苦と妄想の煩惱を寓せる空虛なる蟬殼を破碎せんが爲めなり

從來此の缺點の門を敲かんと欲したるも久しく徒勞に屬したり然れども今は既に高貴の婦女さへも最も活潑なる熱心を以て人世一般の利益の爲めに一分の力を盡し女性が高等の敎育と職業の自由を得るが爲めに反對する世の壓制を解脫するに敢て一分の責を負ふことを肯せざる者あらば人皆目して眞理を辱むる罪人となるに至れり、そは兎もあれ余輩は第一に中等社會の婦人に向て其幸福を賀せんと欲す何となれば中等社會の女子は此の目的に對し諸能力の發達に最も適當なる地位に生れたるを以てなり中等社會の婦人達よ卿等は宜しく此の責任を果すに盡力すへし我々も彼の貴族風を似眞ることなく卿等が社中よりして必ず先づ一層善良なる婦人の世に出でんことを希望するなり

Digitized by Google　　Original from CORNELL UNIVERSITY

思ふに貴族豪富の社會は決して女子の能力をして物質的の務に發達せしむるの地にあらず又下等貧民の辛酸多き運命は決して精神的の發達を望むべからず唯其中間に立てる中等社會の卿等こそ内よ眞正の人情を發達せしめ眞正に人情の化身たるを得らるゝなれ他なし是れ物質的と精心的との二途の合一を俟て初て眞正の人物は出來うべければなり卿等實に此の中等社會に在るの責を全うせば初て婦人を眞に萬物の靈と稱するを得べし造化の晃と呼ぶを得べし彼の殘忍彼の薄情彼の輕佻及び妄想の病苦、信神の怠惰總て此の類の諸惡を職業を勵みて自から眞神の神聖なる犧牲となれる女性の本體中には存在せずして此にも唯善心、慈悲、親愛、及び平和を誘ふ所の善美の天使を舍すべし而して此等の美德は實に既に結婚せる婦人の高齢にも亦尚は二八の妙齢にも等しく美と愛と爽快とを與ふるものなり。

試に婦人が其本務の如何を知らず唯逸樂の慾念と精神の貧缺とが笏を執て支配する家族を見よ實に悲むべき畫像を認むべし又試に年既に闌け春去り秋の將に來らんとする處女が尚は一事爲すべきの職業なく戸外の逸樂世界より他に未だ足を立つるの地を得ず徒らに人の笑ひとなるを見よ亦同じく見るに堪へざるの肖像なり是れ一は自己に任せられたる一家族に對するの本務を全うせざるの罪なり又一は世間の朋友社會に對する本務を缺くの罪なり然れども更に其大なるは自ら我に對して恥なき能はざるの罪なり若し夫れ結婚したる婦人の最大の本務は健氣なる働きの生活あるを知らば尚ほ結婚せざる女子は一層是よりも高度の働きの務あること勿論なり。

世の婦人よ職業の天惠をして卿等が上にあらしめよ喜ばしき感情を以て進で職業に向て行け職業は直に卿等を迎へ最美の形よ身體の諸力を發達せしめ精神の果實を結ばしめ又卿等が諸般の愚痴を去り女人の天性の諸の弱點を去るべきなり。

餘興

新謎

十二月五日〆切　一日の猶豫もなし

左の謎皆當の方には金港堂出版の五十錢以下の**小說一册**進呈致します　六ツ御當の方には例の通いらつめ貳册進上仕候

御注意　爾來は別紙の解答用紙に御記載被下度若し左もなき節は解答は沒書ゝゝ

(壹)　　出題者　上野　風來士
初は黑くッて段々赤くなッてしまひに灰色になるものは何でしやう?。

(貳)　　出題者　仝
寒い時は長くなッて熱くなると短くなるものは何です?。

(三)　　出題者　仝
通例の半紙を三ッに切り又之を合せて正方形を作られますか?。

(四)　　出題者　京橋　花のやこう
おろすときは重く上げるときは輕くなるものはなんでおますやろな。

(五)　　出題者　神田　つゝじ生
食も食べぞ水も飲まないで只風ばかり食ッて生きて居るものは何。

(六)
動くときは直立し止まるときは臥ておるものは

(七)　　出題者　函館　友琴女史
やつがれは生れつき白髮でそが然し体を至つて强健であれから先充分の運動をすれば黑くなります。シテやつがれは上王公貴紳より下裏店社會に至る迄常に愛顧を受けまそ。

(八)　　出題者　上野　風來士
皆さまの御申付になる所へ行きますそれが私の役目でムいまして私が旅立を致す時は皆樣が急度私の脊に接吻して勞ッて下さいます。

いらつめ第十六號餘興の答
(一)トランプ、カルタの類
(二)空氣中の酸素
(三)有花植物
(四)めし
(五)かひ、草木、
(六)坂或は風

皆答者　岩木はな子▲高山はる子　鳥部とき子▲
五題解當者　工藤規矩子▲岡田▲小川とら子▲木下英太郎▲河邊碩▲エムエス▲川又逸子▲大島千代子▲朝霞散史▲紅葉女史▲石川ふじ子▲根本きよ子
皆答の三君へ申上ますお約束の通金港堂小說三冊宛差上けますから御望の品御申込次第早速送ります。

月報

○皇后宮陛下の恩賜金　我仁慈なる　皇后宮陛下には大に赤十字事業を喜させられ去月廿六日廿五年紀祝典の節は祝酒料として金五百圓を下し賜はり猶ほ本社病院建築費及附屬器械買入費の内へ金八萬圓を下し賜はりたる由に承る慈惠の御志のほど有り難しとすも畏こし。

○谷間の姬百合　末松謙澄氏の譯に成たる同書の第一卷は皇后陛下へ上覽せられたる處ろ殊の外思召に適ひ其第二卷は如何あるとの御尋ね迄ありし趣き藤波侍從より末松君へ傳へられたる由にて出版を急がるゝ由最早近々に世に出つべし

○高等師範學校生徒　今般高等師範學校に於ては明治十九年十月十四日文部省令第十八號該校生徒募集規則に基き來る明治二十二年四月に入學をべき女子師範學科生徒廿五名試驗生として募集するよし。　志願者ハ尋常師範學校の二ヶ年の課程を終りたるもの若くは之に均しき學力並に資格を有する者にて族籍(住所)氏名生年月學業業務賞罰の事を詳記したる履歷書を添へ地方廳へ出願をべしとの事なり

○婦人慈善會　本日より十七日迄三日間午前十時より午後三時迄鹿鳴舘に於て貴夫人の方々ゟ慈善會を催す筈にて毎區の擔任を左の如く定められたるよし

第一區　三條公爵夫人　蜂須賀侯爵夫人
第二區　森子爵夫人　鷹司公爵夫人
第三區　花房夫人　杉子爵夫人
第四區　岩倉公爵夫人　黒田伯爵夫人
第五區　岩崎夫人　大隈伯爵夫人
第六區　柳原伯爵夫人　吉田子爵夫人
第七區　吉井伯爵夫人　大村子爵夫人
第八區　三島子爵夫人　寺島伯爵夫人
第九區　高崎男爵夫人　土方子爵夫人
茶店　井上伯爵夫人　西郷伯爵夫人

○櫻井女學校　府下の同女學校に於ては此度篤志にして學資金なきものゝ爲めに別科を設け半日洋服の裁縫に從事して若干の賃金を取り其を學資として修業する方法を立てられたるよしなり加藤勝弼氏の母君其取締と爲りバラ孃英語教師と爲り生徒は當今十三四名ある由に承はる

○女子職業學校　去る十日神田一橋通町の同校にては午前九時より午後三時まで府下の紳士淑女を招き生徒製品と生徒受業の實況を一覽に供せられたり弊社員も案内を受け參校したるに製品陳列場にて明年の佛國博覽會へ出品すべき刺繡圖畫造花編物裁縫等各科生徒製品の陳列あり何れも見事の出來なりし殊に造花刺繡花鳥は眞に逼り圖畫科の製品には意匠の高尚なる摸樣畫ありたり是より順次に生徒の案內にて教室を巡覽しさるに僅々の日子にてかくまで長足の進歩をなしさるは實に驚き入りたる次第にて教員教授のよろしきと生徒勉勵の程思ひ遣られたり唯當日は非常の雜沓を極め十分に觀察すると能はさりし一事ハ遺憾の事なりき

○麻布フレンド女學校　津田仙氏の邸地内に去年來設けられたる布連土女學校ハ兼てコーサンド氏夫婦の管轄せらるゝ處ろなるが此頃に至りウライト氏夫婦亦た新に渡來し教授を助けらる同校は擴張の計畫あり既に之に廣大の校地を買入れられたるが當今獨逸に在らるゝ大田稻造君の歸朝を待つて盛んに實行をべき目論見のよし也

○奇特の女教員　長崎縣北松浦郡平戸村尋常平戸女兒小學校裁縫教員西澤ユキなる人は今五拾餘歲の老婦なるが性質温順にして生徒を教導をる懇到周密なり曾て該校ハ舊米廩を使用せるを以て壁色暗黑にして光線の映射を缺くを憂ひ自ら金四拾圓を寄附し壁の塗替をなさしめたりと奇特の婦人と云へし

○女醫　本年醫術開業試驗に及第したる中下谷西黒門町廿三番地荻野キン日本橋區元大工町九番地高橋ミツの兩子は開業免狀を得て去る五日東京醫會々員に加入せり

○哲女舘　青山なる所表門前ある同舘ハ追々生徒の數も増し規模も擴かりたるが爲め何れへか轉校新築するの計畫ありて既に其地所撰定中ありし由は兼て諸新聞にも記載せられたる如くありしが今度四ッ谷區信濃町住居鹿兒島縣士族藤崎供秀君が同區同町の地處千坪を同舘へ新築地として寄附せられたるに付同校にて愈よ今度同地へ新築に着手する由同所は土地高燥靜閑にして女生徒を養成するにハ最適當の塲所なり

○啓女舘卒業式　教授のよろしき故にや生徒學業の進歩他校に比して甚だ著しく去月廿日より學期の試驗を執行したるに英學科に於ては瀧村すみ子同はた子渡邊ゆり子の四氏裁逢科にては島あさ子島田元子勝田つる子の三氏高點にて卒業し教師博士イビー夫人始め教員一同も大に右諸氏の平生の勉勵を賞しよりと又同舘にてハ今般更に高等科を設け就學女子をして十分滿足なる結果を與ふる計畫成りたるが爲め更に右高等科生若干名及び補欠生若干の入學を許す由

○婦人の受付　岡山縣立病院にては今般受付係員は總て婦人に以てこれに充つることにしたるに來院患者に對しての取扱向懇切にて頗る其職務に適せりと云ふ

○棚倉婦人會　本會は去年霜月ゟの設立なるが爾來益々盛に赴き當時は會長石井操子。幹事阿部直子。内山澄子。協議委員三名及び特別會員通常會員併せて五十餘名に及べり毎月第二第四の土曜日を以て開會し演説談話及實習等をなすといふ

社告

化粧は本號餘白なきに付き掲載せず

●毎月一回第一日定期發行●●●●●●●●●

本誌は當代男女の風俗を矯正し技藝を進むるを以て目的となす●本誌は優美高尚にして沈着平淵を旨となす●第二號十一月一日發兌目錄の大要●●呦々氏所説●●女學校教員に關する巷説●婦人の慈善●●小説●●擧水佳活藤熊雨松風閣主人●魔術者芙蓉園主人●●特別寄書●●小説の由來を論ず増田于信●決闘原則社友佛人●●漫錄四件●●禮式●●英國法名刺●●文苑●●大沼枕山●八米幹文●其他諸大家●●徒然草●●淨瑠璃由來並太夫小傳●●おぼゐといふ言葉●●批評●●護國之鐵壁●夏木立●自由鏡●●時事●●太平の花●遊技か練習ゟ●安生堂●鏡が池●慈善會の模樣●橫濱の學事●迷路行●各地婦人會●端艇の流行●決闘の氣焰●都の花●●●●●●●●●●●●●●●●●

君子と淑女

每月一回第一日發行

本社は廣く決闘の質疑に對ふ可し

●一部七錢　●郵稅弍錢

東京深川區東森下町二十二番地

呦々社

毎月二回 都の花

十一月四日發行 **第貳號目次**

○花ぐるま……(續き)……美妙齋主人
○許嫁の縁(いひなづけ えにし)……秋月女史
○中原の鹿……(續き)……流鶯散史
○政黨美談 淑女の操(續き)……學海居士
○華胥の夢……(續き)……槐堂仙史
○謠文評釋 鉢の木(續き)……迷花生

插畫

○貴女知人に過ふ圖……渡邊省亭
○鏡中鼻を見る圖……小林清親
○美人醉漢を拉く圖……月岡芳年
○瘦馬鎌倉に到る圖……松岡緑芽

一冊代十錢　五冊代四十七錢
十冊代九十錢　(郵税二錢)

發行所 東京日本橋區本町三丁目 **金港堂**

傳授廣告

世界一大發明 **健忘**(モノワスレ)ヲ治シ**記臆**(オボヘ)ヲ即聰明ナラシムル**秘術**
右傳習望ノ人ハ郵券貳錢ヲ送附アレバ方法細則速ニ呈送ス

薩摩揖宿病院
院長西牟田

少年園

毎月二回(三日、十八日)發行 一冊定價金五錢、半年前金五十五錢 一年前金一圓。郵税一冊金一錢 郵便爲替向け所本郷郵便局。半年分以上注文の方には一種の不可思議なる新書を呈すべし

第一號目次 天長節發兌 (壹万二千部 國文社印刷)

畫探し(セントヘレナ島の景色ナポレオンの幽靈)
發刊の主旨を述べ先づ少年の師父に告ぐ。

少年園
天長節を祝し開園の緒言とす　東海散士
朋友ノ感化　柴四朗
少年園記者に寄す　徳富猪一郎

學園
手紙の書方　能勢榮
鸚鵡瑣談　朝比奈知泉

文園
天長節の歌序并譜　伊澤修二
The Death of Atsumori.　井上十吉
紅葉(小説)　饗庭篁村

譚園
少年園の案内　插畫　大森惟中
大人の幼時
游學の栞　插畫

叢園
白面き事柄數件　插畫數種

芳園
中小學生徒の寄草數篇

懸賞問題三題

東京北豐島郡上駒込村 山縣悌三郎邸内 **少年園**

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（遞信省認可）

いらつめ第十五號目次

挿畫。天下奇觀ナイアガラ瀑布新圖石版

家政。小供と物語本。禽獸を虐遇する習慣を小供た付ぬ事帳簿を現ヨ買物を現金ヨ。古器天鵞絨を新しくする法。

小說。空行く月（第五回）。

講義。用器畫稽古の新法（圖入）

文藝美術。正本ハムレット。花のかをり。題しらす。きのふは ゆふべは。野生の花薔薇。

雜纂。人工の片輪（西洋婦人の腹）（密畫入）茶碗を打つて年齢を悟る奇術及其理。

近事批評。渡邊鼎氏洋服採用の可否。

近刊批評。自由鏡初篇。今古ひめかゞみ。婦人言論の自由。夏木立。

流行。少女の帷子＝單もの＝阿波ちゞみ＝茶壺の復古＝若狹塗＝梨子地の筆軸＝灯燈形のホヤ＝帛紗。

化粧。肉色を麗しい薄紅色にする法。顏の肌理にある汚物を去る法。そばかすを去る法。

通信問答。一、紫 令嬢へ＝寳石貴金屬の寓意〇二、秋野令嬢へ＝二件〇三 敷島さまへ＝最上の日本語典〇四 一條令嬢へ＝指輪のはめ方＝花鳥の音色＝（いつくしき」と「うつくしき」〇、五華園令嬢へ＝コルゲート商會の香水＝外四件六、あき子さまへ＝雅語綴字例の評〇七、つる子さまへ＝「ヲナモミ」の葉が色を白くするか〇八、岡山令嬢へ＝レースを洗ふ法〇九雪枝さまへ＝姿見鏡を清くする法 〇十、岡田さら子さまへ＝鉄のサビを取る法〇十一、翠烟令嬢へ＝病室の臭氣を去る諸法〇十二、花子令嬢へ＝ペンキの臭氣を去る法（十三、〇廿露女史へ＝手輕即席汁粉製造

餘興。新作謎

月報。

いらつめ第十六號目次

家政。妻らしい妻。安直で美衣美食を得る秘傳。女生徒衣服粧飾。細君虎之巻。レモンの効用

小說。空行く月（第七回第八回）（美妙齋）

講義。用器畫法第八回。

雜纂。露國育兒の奇法。婦女のいましめ。

近事批評。洋服案討議。

近刊批評。文覺上人勸進帳新婦人＝君子と淑女。

流行。薄紅色の服＝帶地＝袷地＝袖口へ丁子龍腦麝香を縫込むと＝銀製御所櫻の簪＝つかみざし。

化粧。齒の色の黄色なのを除く法＝爪をうるはしくする法＝髮垢を去る法。

文藝美術。病後の吟（美妙齋）柳櫻都錦繪（立花屋かをる）

寄書。洋服に付きて（久平老人）

通信問答。もみぢ樣へ＝燒餅を燒くといふ事〇〇紫園令嬢へ＝ハンケチで會話する法〇〇高木つや子樣へ＝黄色になつたフラチルを洗ふ法〇〇大島令嬢へ＝鮫のよらぬ法〇〇岡田さり子樣へ＝日本字モノグラムに水引の結び樣〇熨斗の事。夜の到來物〇江崎樣＝御辭儀の仕樣〇〇はな子樣へ＝しつけの事〇一條令嬢へ＝白山羊の手袋〇園子樣へ＝臉燒を治す法〇絹子樣へ＝小豆を早く煮る法。松魚の虫を防ぐ法〇文子孃へ＝蕈類の毒を試す法松蕈の貯へ方〇 山本氏へ＝銅鍋の錆を引く法〇時子孃へ＝かすていらをふくらす法。ユデ卵を殼のまゝ切る法。

餘興。新作謎

月報。

通俗衛生學。

〇いらつめ代價一冊金八錢六冊（半年分）金四十五錢十二冊（壹ケ年分）金八十錢府外毎號郵税壹錢宛申受〇毎月十五日發兌雜誌代ハ前金ニアラサレハ御送附不申候金子御差送ノ手續ハ郵便小爲替ナラハ拂渡郵便局トアル所ニ神田郵便局ト御記入ノ事幷ニ受取人氏名トアル所ニ神田區駿河臺南甲賀町八番地成美社ト必記入ノ事

〇廣告料一行 五號文字二十七字詰 金八錢〇十一行以上金七錢〇二十一行以上金六錢 但前金ノ事

發行兼編輯人 山田武太郎 印刷人 佐野忠吉

東京神田區駿河臺南甲賀町八番地

發行所 成美社

（麹町區平河町文旋舎活版部印刷）